

## 独自のカリキュラムを持つ9つの専攻により 文学・歴史・地理・人間の領域に挑む

文学研究科は、日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・史学・地理学・臨床人間学・文芸メディア専攻の9つの専攻から成り立っています。史学専攻においては、日本史学・アジア史・西洋史学・考古学の4専修、臨床人間学専攻においては、臨床心理学・現代社会学・教育学の3専修に分かれています。

これらの各専攻・専修は、それぞれの専門分野を深く極

められることが出来るようにカリキュラムが組まれており、約100名の専任教員が担当しています。また、専任教員でカバー出来ないところは、兼任教員によって補充しており、少人数教育による指導を徹底しています。各専攻・専修での縦断教育のみならず、専攻の枠を超えた横断教育も行い、広い視野から専門を据え直すとともに、新しい研究領域の開拓を目指しています。

### 専攻

文学研究科では、専攻を9つの系列に大別し、専攻ごとに独自のカリキュラムを組み、複雑多様化する人文科学の諸分野をカバーし、研究指導を行っています。

### 共通科目の設置

文学研究科では、専攻横断的、総合的研究領域の創設を目指し、博士前期課程に「総合文学研究」「総合史学研究」、「特修外国語科目」、博士後期課程に「文化継承学Ⅰ～Ⅲ」を各専攻共通科目として設置しています。

### 文学研究科の人材養成

#### その他教育研究上の目的

文学研究科は、日本文学、英文学、仏文学、独文学、演劇学、文芸メディア、史学(日本史学、アジア史、西洋史学、考古学の4専修)、地理学、臨床人間学(臨床心理学、現代社会学、教育学の3専修)から構成され、いずれの専攻・専修においても、多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することを目的としている。豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化と科学的な時間・空間認識を会得した優れた人材育成(博士前期課程では専門的知識を有する社会人を、後期課程では専門的に研究に携わる研究者の養成)を目標とする。

### 専攻

#### 日本文学専攻

P.065

各時代別の文学および時代を限定しない国語学を研究するための科目を中心とし、更に日本文学史・日本文学特殊講義・漢文学など関係領域科目を設置。

#### 英文学専攻

P.066

文学では、1500年代から現代に至るまでの演劇、小説、批評を中心としたイギリス文学、アメリカルネサンス期から現代に至るまでの小説や詩のほか、多岐にわたるジャンルのアメリカ文学、ならびに身体論、ジェンダー論、文化論などの理論を、英語学では、統語論、形態論、語用論、認知言語学、意味論、音声学・音韻論、文体論、語彙論、辞書学、日英対照言語学などを研究。

#### 仏文学専攻

P.067

フランス文学、文法論的研究をはじめ、19・20世紀フランス思想、ルネサンス、近代の散文の分析、近代の詩の解明を対象とし、ブルーストやフランス演劇なども研究。

#### 独文学専攻

P.068

近代現代文学を研究対象とし、思想、芸術、政治などの関わりで文学現象を考察出来る視点を持つよう指導。語学能力向上のための徹底した訓練も実施。

#### 演劇学専攻

P.069

日本演劇と西洋演劇について広い視野を持って歴史的、論理的に研究する基礎を築きつつ、専門領域においての探究を深めるよう指導。

#### 文芸メディア専攻 (修士課程のみ)

P.070

思想から風俗に至る文化的諸状況、特にメディア状況と文芸テキストの関係を総合的に考究する。具体的には、メディアと大衆文化、都市・都市文化と文学、源氏物語をはじめとする古典文芸の受容、仏教思想・国学思想と文芸、近世文芸と近世メディア、出版社・出版研究、文芸思潮研究、創作特論、翻訳研究、表象文化論など。

#### 史学専攻

P.071-072

社会的存在としての人間が営々と培ってきた諸国の歴史と、その結果もたらされたものの分析、更には各時代の文化の特質などを、研究対象に設置。

【日本史学専修】 古代から現代史までの幅広い領域を対象。

【アジア史専修】 アジア全域の全時代を対象。

【西洋史学専修】 西欧や国際関係史など幅広い領域での研究を展開。

【考古学専修】 東アジアでの日本の位置付けについても研究。

#### 地理学専攻

P.073

地形・気候・環境などの自然地理分野、経済・社会・文化などの人文地理学分野、国内外を対象とした地域研究などを実施。

#### 臨床人間学専攻

P.074-075

混迷をきわめる現代社会とそこに生きる人間について、心理・社会・教育の視点から探究するとともに、地域社会や個人を実践的に支援する専門家の育成を目的とする。

【臨床心理学専修】 他者の理解や援助を学問と実践の両輪で探求する。

【現代社会学専修】 現代世界におけるあらゆる社会を幅広く対象とする。

【教育学専修】 教育学、社会教育学、博物館学、図書館情報学における専門的・実践的調査研究と各領域を横断した総合的教育学の追究。



文学研究科Webページ

明治大学大学院 文学研究科

検索

事務取扱時間 (グローバルフロント5F)

平日▶09:00~11:30/12:30~18:00 土曜日▶09:00~12:30 電話▶03-3296-4143 Mail▶bunken@mics.meiji.ac.jp

※休業期間やイベント等により事務取扱時間は変更となる場合があります。

【博士前期課程・修士課程】

文学研究科博士前期課程及び修士課程は、多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することができる人材を育成することを目指しています。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 当該専攻・専修で必要とされる思考力、知識、語学力を学士課程ですでに養っていることに加えて、世界・社会のヴィブッドな動向への幅広い視野と関心、及び身近な日常的事象に対する鋭敏な感性と問題発見能力、常識に囚われない「自明性」を懐疑し得る自由な着眼力、大胆な仮説に基づき、これらを緻密かつ誠実に分析・考察し得る論証能力、さらには専門分野だけに偏らない深い教養、また、以上のことを的確に表現し得る高度に洗練された言語能力等を兼ね備えた者。
- (2) 将来、専攻領域及び関連分野の高度な専門的知識と確かな技能を持って、地域社会及び国際社会の一員として活動する意志と覚悟を有する者。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験、飛び入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下の通り示します。

ア 学士課程において修得すべき思考力、知識、語学力を十分に備えていること。

イ 自分を世界・社会のなかに位置づけ、幅広い教養を得ながら、自分自身で追究し、またその成果を文章に表すことができること。

【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程は、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を育成することを目指しています。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 当該専攻・専修博士前期課程修了のために必要とされる知識と思考力と語学力を備え、指導教員が必要水準以上と判断した修士号請求論文を提出し、論文審査に合格した者、あるいはそれと同等の能力を所有する者。
- (2) 博士学位請求論文提出の意欲を持ち、そのために必要な高度な学習や実習に加えて、海外への長期留学、各種学会での発表、紀要論文等の執筆を着実に遂行することができ、かつ、世界的水準での自立した研究者、教育者として、日本及び海外諸国で貢献できるまでの困難な道程を歩む気概と具体的戦略図を持った者。

以上の求める学生像に基づき、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下の通り示します。

ア 博士前期課程修了のために、必要とされる知識、思考力、及び言語能力（語学力を含む）を備え、修士号論文審査の合格を有していること。

イ 博士学位論文提出に向け、さらなる研究への探求とそれを進めるための技術的なスキル、目的遂行能力を備えていること。

教育課程編成・実施方針

※教育課程編成・実施方針は **P.064** を参照してください。

学位授与方針

【博士前期課程・修士課程】

文学研究科博士前期課程及び修士課程は、多角的な人文科学の基礎を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することが出来る人材を輩出することを目指しています。この人材養成目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに学位論文に基づき、以下に示す能力を備えた者と認められる者に対し修士（文学、史学、地理学または人間学）の学位を授与します。

- (1) 主体的に学び研究する能力。
- (2) 幅広い学識、並びに語学力等を生かせる言語コミュニケーション能力と研究能力。
- (3) 問題を発見してそれを粘り強く解こうとする目的遂行力、自らの考えを他者に的確に伝え得る文章表現能力、及びそれを評価できる能力。
- (4) 学士課程よりも高度な課程で学習する自分を世界、社会のなかに位置づけ、自分に何が成し得るかを客観的かつ謙虚に振り返り、自己を対象化できる能力。
- (5) 論理的な思考力と問題を自ら発見し解決する能力。
- (6) 学問成果に基づいて、社会に貢献する実践力。
- (7) 分野別には、以下に掲げる能力を求めます。

学位（文学）

日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関し、自分の対象とした分野・時代・作家・作品・資料等について、独自の問題設定ができ、新規性のある内容を、論理的に表現して提示できる能力。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関し、自分の対象とした分野・作家・作品・文化事象・言語事象等について、問題の発見を行い、それに対して独自の見解を実証的・論理的な解法で提示できる能力。

仏文学： フランス語圏の文学・文化・思想などの分野で幅広い知識と専門的学力をもち、自分の力で問題を発見し、実証的な方法によって分析・考察を行い、独自の見解や仮説を示しうる能力。

独文学： ドイツ語圏の語学、文学、文化及び思想に関する幅広い学術的基礎知識を持ち、普遍的課題につながる独自の研究を創成するために応用できる能力。

演劇学： 演劇史・演劇学に関わる深い学術的知識と上演芸術研究に必要な分野横断的な幅広い視野を持ち、課題の本質を分析する能力。

文芸メディア： 文芸概念を「文芸というメディア」、「メディアとしての文芸」という観点から分野横断的に捉え、新たな文芸研究を構築していく能力。

学位（史学）

史学： 歴史学・考古学における幅広い知識と専門的スキルを持ち、科学的な分析を進めうる能力。

学位（地理学）

地理学： 地理学における幅広い知識と専門的スキル・技能を持ち、科学的根拠に基づいて地理的事象について分析を進めうる能力。

学位（人間学）

臨床心理学： 科学的根拠に基づいて人間や社会が抱える諸問題に向き合い、臨床心理学的に観察・分析する能力、及び言語・非言語にかかわらず、他者が発する気持ちに対し共感的に傾聴し、専門的に支援できる能力。

現代社会学： 現代社会の社会現象や社会問題について、幅広い知識と専門的な分析力をもって理解し、人間や社会が抱える諸問題の実践的課題解決に向けた専門的な構想を可能にする能力。

教育学： 教育学・社会教育学・博物館学・図書館情報学のいずれかの分野における幅広い知識と専門的スキルを持ち、人間形成における理念、社会的機能と課題について理解し、実践的課題解決とも結びつける能力。

【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程は、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を輩出することを目指しています。この人材養成目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに学位論文に基づき、以下に示す能力を備えた者と認められる者に対し博士（文学、史学、地理学または人間学）の学位を授与します。

- (1) 深い学識、語学力、思考力を備えて当該分野における国際的水準の研究を自立して遂行できる能力。
- (2) 研究者や他の人々と向き合ってみずからの研究成果を伝える発信能力。
- (3) 研究者として学問成果を広く社会に問い還元し、後進の教育ができる能力。
- (4) 分野別には、以下に掲げる能力を求めます。

学位（文学）

日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関し、自分の対象とした分野・時代・作家・作品・資料等について、高度な問題設定ができ、学界に貢献できる内容を、説得力のある表現で提示できる能力。

英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関し、自分の対象とした分野・作家・作品・文化事象・言語事象等について、問題の発見を行い、それに対して独自の見解を実証的・論理的な解法で提示し、当該分野の研究の発展に貢献し、社会への貢献ができる能力。

仏文学： フランス語圏の文学・文化・思想・言語等の分野で、研究者・教育者として自立し活動できるだけの知識・語学力・思考力・発表力・論文作成力などを備えた能力。

独文学： ドイツ語圏の語学、文学、文化及び思想に関して広く深く学術的研究に取り組むとともに、その成果を国内外の研究交流を通じて深め、研究・教育をはじめとする社会的活動の場に還元していく能力。

演劇学： 演劇史・演劇学に関して広く深く学術的研究に取り組むとともに、その成果を国内外の研究交流を通じて深め、様々な場において社会的文化活動や教育の場に還元していく能力。

学位（史学）

史学： 歴史学・考古学における深い知識と高度な技能を修得し、人間の過去の営為を分析評価する能力。

学位（地理学）

地理学： ア 地理学における幅広くかつ深い知識と高度な専門的スキル・技能を修得し、科学的根拠に基づいて地理的事象について分析評価する能力。  
イ 研究者として自立し活動できるとともに、指導者として後進を教育・育成する能力。

学位（人間学）

臨床心理学： ア 個人や社会の抱える諸問題に対し、臨床心理学的視点から高度に分析・研究する能力。  
イ 研究で得られた知見を臨床現場において実践し、専門家として現場に還元する能力。

現代社会学： ア 現代社会の社会現象や社会問題について、国際的な最高水準の研究を含めた幅広い知識と専門的な分析力をもって理解する能力。  
イ 人間や社会が抱える諸問題の実践的課題解決に向けた専門的な構想を可能にする能力。

教育学： ア 自立した研究者として成果を広く社会に問い、還元・教育ができる能力。  
イ 教育学・社会教育学・博物館学・図書館情報学のいずれかの分野における幅広い知識と高い専門的スキルを持ち、人間形成における理念、社会的機能と課題について理解し、実践的課題を提起する能力。

### 【博士前期課程・修士課程】

現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与しつつ、豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識を会得した優れた人材を輩出することが、文学研究科博士前期課程及び修士課程の教育理念並びに目標です。そのために、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与する能力を会得するために、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- (1) 各専攻・専修での学部課程での学習、実習成果を更に発展させつつ、より深い学識を身につけさせることで、先端的な専門知識への道を開き示すと共に、苦手な分野では基礎的な学習と作業へと立ちかえらせます。
- (2) 「総合文学研究」「総合史学研究」「特別講義」のような科目、並びに学術講演会などを通じて、専門外のも多様な知識にも広く触れてもらいます。そのために客員教員、特任教員等の制度も活用します。
- (3) 研究指導においても、修士学位論文の執筆についてはきめ細かな指導を行うのみならず、中間発表などで口頭発表、論文作成の基礎習得を重視した指導体制を構築しています。
- (4) 成果還元としては、大学間での研究発表会レベルでの発表を想定し、これを推進しています。
- (5) 分野別には、以下の力点を設定しています。

#### 学位(文学)

- 日本文学： ア 日本文学・国語学・漢文学に関する修士学位論文作成に向け、執筆能力を段階的に涵養すべく、演習科目を設けて研究構想・先行文献の評価・成果発表等を実践的に指導します。  
イ 特論科目によって分析・考察のスキルを深めます。  
ウ 関連する専門科目の履修によって、幅広い視点を有することができるような能力を育みます。
- 英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関する修士学位論文の執筆に必要な知識・読解力・分析力・発表能力の習得に資する科目群を配置しています。
- 仏文学： ア フランス語圏の文学・文化・思想について、分野ごと及び時代ごとの専門知識を深められるような演習科目と特論科目を配置しています。  
イ 特に演習科目においては語学力、読解力、発表力、論文作成能力などが身につくようカリキュラムを編成しています。
- 独文学： ア ドイツ語圏の語学、文学、文化及び思想の研究領域の幅の広さに鑑み、個別領域の学術的知識を深める科目を配置しています。  
イ 同時に、分野横断的な基礎学習も継続できるようにカリキュラムを編成しています。
- 演劇学： 演劇史・演劇学の研究領域の幅の広さに鑑み、個別の領域の専門知識を深めると同時に、幅広い基礎的な学習も継続できるようにカリキュラムを編成しています。
- 文芸メディア： 分野、また、作家・作品研究に専門化した演習・特論のほか、文芸の分野横断的研究のために、日本文芸史、表象文化、表現創作の各特論を配置したカリキュラムを編成しています。

#### 学位(史学)

- 史学： 演習・実習などの実践的な授業と、歴史学・考古学の幅広い内容の講義を提供するとともに、複数の教員によるきめ細かな研究指導を行うカリキュラムを編成しています。

#### 学位(地理学)

- 地理学： ア 地理学に関する修士学位論文を作成するために、研究・執筆能力を段階的に涵養すべく演習科目を設けて研究構想、先行研究の評価、成果発表などを行う科目を配置しています。  
イ 同時に、調査・分析・考察の手法を深め、さらに関連する専門科目の履修によって、幅広い視点を育むカリキュラムを編成しています。

#### 学位(人間学)

- 臨床心理学： ア 今日の社会において緊急性の高いニーズである「心のケア」、すなわち、うつ病や不安障害等の心の病気、学校における不適応やいじめ等の問題、育児ストレスや児童虐待・家庭内暴力等の家族関係の問題、性的マイノリティや性機能等のジェンダーやセクシュアリティをめぐる諸問題、DVやハラスメント等の人権に関わる問題など、あらゆる世代の個人及び様々な集団において生じる心理・社会的諸現象に対する専門的対処に、直接的かつ具体的にアプローチする臨床心理学の専門家の養成と実践的な研究の推進を目指すカリキュラムを編成しています。  
イ また、臨床心理士・公認心理師の資格取得カリキュラムに対応するため、講義演習と併行して学内外の専門機関における臨床実習のコマを多数設置しています。
- 現代社会学： 人間や社会の抱える諸課題の実践的課題解決に向けた専門的な構想力を身につけるため、社会の現場での実習を重視したカリキュラムを編成しています。講義・演習・実習のバランスの基本的な目安としては、講義が3分の1を超えないこととします。
- 教育学： 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に示した力を獲得し、専門性を生かした進路に進めるよう、講義・演習・実習を適切に組み合わせ、分野横断的に問題の本質を理解できる能力を育むカリキュラムを構成します。

### 【博士後期課程】

文学研究科博士後期課程の教育理念・目標である、専門的に研究に携わる研究者として豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化的教養と精緻な科学的認識の会得を実現するために、以下に示す方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- (1) 各専門分野において、自己の研究を客観的に位置づけ、その意義、成果と問題点を世界的水準で認識し、それについて内外の研究者たちと関連に議論でき、また、国際シンポジウムなど、研究の国際的協力体制を築くことができる能力を、専攻横断的かつ受講者参加型の科目を交えて養成します。
- (2) 学内・学外のGP、大型共同研究にも積極的に参加して経験を積み、高度な学問的研鑽の社会的責務を宿した知的倫理性を養成します。
- (3) 研究指導においても、指導教員を中心としながら、当該分野での最も困難な問題、それを解明するための最も高度な知識、最も先端的な方法を提示し、各専攻・専修において、博士学位請求論文完成までの明確なガイドラインののっとり指導体制を構築しています。
- (4) 文学部の助手制度を活用し、その期間の留学を可能にしています。また、国内外調査などへの助成を様々な形で行っています。
- (5) 分野別には、以下の力点を設定しています。

#### 学位(文学)

- 日本文学： 日本文学・国語学・漢文学に関する各種の関連学会・研究会等へ積極的に参加して研究発表を行いつつ、多様で優秀な人材との交流を深めることで、学位論文全体を統一するテーマを広く大きな視野に基づいて設定できる能力を養えるカリキュラムを編成しています。論文指導のもとで客観的な査読に耐えるような個別的論考の執筆を積み上げ、それらを博士学位論文としてまとめることができます。
- 英文学： 英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語学等に関する博士学位論文の完成を目標とした継続的指導を行い、学会等での発表、学術雑誌等への執筆のための指導を可能とするカリキュラムを編成しています。
- 仏文学： ア フランス語圏の文学・文化・思想について、それぞれの研究主題に基づき博士学位論文を作成できるようになるための長期計画に基づいた指導を行っています。  
イ 学内外の雑誌のための論文作成や研究発表についても適宜指導を行います。  
ウ 長期の海外留学を積極的に奨励しています。  
エ 研究の深化と視野の拡大、語学力の錬磨を意識づけることを可能にするカリキュラムを編成しています。
- 独文学： 自己の研究を、個別の専門領域において深化させるとともに、学際的な視点をもって客観的に位置づけられる研究者の養成のため、学内での研究発表会や国内外の関連学会での発表促進、学会誌等の論文及び博士学位論文執筆の指導、そして研究を深化させ発信力を高めるための積極的長期留学奨励を含むカリキュラムを編成しています。
- 演劇学： 自己の研究を個別の専門領域において深化させるとともに、学際的な視点の中で客観的に位置づけられる研究者を養成するため、専攻内での研究発表会や国内外の関連学会の発表を促進し、学会誌等の論文執筆の指導を含むカリキュラムを編成しています。

#### 学位(史学)

- 史学： ア 内外の研究活動や学会に参加して経験を積み、研究成果を積極的に発信することを奨励しています。  
イ 外国史専修者には、長期の海外留学を奨励するとともに実践的な語学力を養成します。

#### 学位(地理学)

- 地理学： ア 地理学に関する博士學位論文のテーマを広く大きな視野に基づいて設定できる能力を養い、学位論文を作成できるようになるための長期計画に基づいて指導します。  
イ この指導の下で、内外の関連する学会・研究会などに積極的に参加して研究発表を行いつつ研鑽を積ませるべく、カリキュラムを編成しています。

#### 学位(人間学)

- 臨床心理学： 研究で導き出された知見を臨床実践に、また現場で体験的に得られたデータを研究に、それぞれを有機的に結び付けて還元することができる人材を育て、また後進を専門的に高度に指導できる教育・研究者、現場指導者の育成を目指すカリキュラムを編成しています。
- 現代社会学： ア 現代社会の社会現象や社会問題について、国際的な最高水準の研究を含めた幅広い知識と専門的な分析力を身に付けるべく、国内・国際学会での研究交流と研鑽を目指すカリキュラムを編成しています。  
イ 研究対象として選んだ社会現場において、もっとも徹底した、もっとも先端的な水準の研究を行えるカリキュラムです。
- 教育学： 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に示した力を獲得し、専門性を生かした進路に進めるよう、演習を中心として指導を行い、学会発表・論文投稿など研究成果公開を推進するカリキュラムを編成しています。



## 日本文学専攻

日本文学専攻の人材養成  
その他教育研究上の目的

日本文学専攻は、古典から現代までの日本文学全般を多様な視座から究明するとともに、その統一的把握を目指す。従来の文献研究・テキスト批評を堅固な基礎としつつ、歴史に対する幅広い関心を持って新しい研究領域を切り開き、文学と社会の関連を明らかにする。このような実践を通して、日本文学の専門的研究者・教育者及び日本文化に関する高度な素養を身につけた教養人の育成を行う。

## 2023年度 修士論文テーマ

- ▶ 昭和での関東地方における関西弁進出 ―関西弁母語話者における小説・漫才を対象にして―
- ▶ 『萬葉集』における「雲」の様相 ―萬葉語「雲隠ル」の認識をめぐって―
- ▶ 日本上代文学における中国詠物詩の受容
- ▶ 花田清輝『アヴァンギャルド芸術』論 ―「アヴァンギャルド芸術の方法」の探求―
- ▶ 日本語オノマトペにおけるひらがな・カタカナ表記 ―印象の差異を中心として―



## カリキュラム一覧

## 主要科目

日本古代文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
日本古代文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
日本中世文学演習A・B・C・D  
日本近世文学演習A・B・C・D  
日本近代文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
日本近代文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
日本近代文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD  
国語学演習A・B・C・D  
漢文学演習A・B・C・D  
日本文化学演習A・B・C・D

## 特修科目

日本古代文学特論ⅠA・ⅠB  
日本古代文学特論ⅡA・ⅡB  
日本中世文学特論A・B  
日本近世文学特論A・B  
日本近代文学特論ⅠA・ⅠB  
日本近代文学特論ⅡA・ⅡB  
日本近代文学特論ⅢA・ⅢB  
国語学特論A・B  
日本文学特殊講義ⅠA・ⅠB  
日本文学特殊講義ⅡA・ⅡB  
日本文学史特論A・B  
漢文学特論A・B  
日本文化学特論A・B  
日本演劇特論ⅠA・ⅠB  
日本演劇特論ⅡA・ⅡB  
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB  
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB

## 特定科目

日本文学特別指定講義Ⅰ  
日本文学特別指定講義Ⅱ

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

## 院生からのメッセージ

## 博士前期課程

## Master's Program



## 立花 耀紀

TACHIBANA Akinori

日本文学専攻  
博士前期課程 2年

## 存分に学び、吸収する環境

今、日本文学専攻で大学院に興味を持っている方はそれだけの興味がある分、研究したい分野に絞って勉強しているのではないのでしょうか。特に時代の壁などは気軽に飛び越えられるものではないでしょう。しかし大学院に入ると事情が変わってきます。全ての授業がゼミ形式になり、先生方が設定されたテーマ・作品について院生全員が発表機会を持ち、それまでとは勝手が違う対象に対して意見を交わします。慣れない作業に苦勞することもあります。そこで得られる手法・視点は自分の研究に大変役立ちます。またそうやって同じ課題に向き合っていると自然と院生同士のコミュニケーションも増え、お互いの研究の話から思わぬ収穫を得ることもあります。どちらも大学院という環境のおかげです。特に日本文学専攻は昨年度から研究大会

を立ち上げ、他の院生の研究を知りやすくなりました。皆さんとお話できる日を楽しみにしています。

Q 師事している教員は？

A 杉田 昌彦 教授

日本近世文学の研究室です。ひと口に近世文学と言っても幅広いですが、江戸時代の文学を中心としています。昨年度の特論では曲亭馬琴の読本『開巻驚奇侠客伝』を講読しながら各々テーマを設定して研究しました。演習は先生と相談しながら各自の研究を進めるスタイルです。授業時間を一杯使ってやりこみます。

教員情報 P.076

## 英文学専攻

### 英文学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

英文学専攻博士前期課程は、4専修から構成される。英文学・米文学・英語学専修では、各分野についての専門知識を身につけて後期課程に進学し、研究者への道を歩む人材の養成を目的とし、英語教職専修では、高度な専門知識を有する中高英語教員の養成を目指す。博士後期課程は、英文学・米文学・英語学の3専修から構成され、身につけてきた知識を基盤に各自の研究を発展させて博士論文を完成させ、その後も自立した研究を積み重ねていく人材を育てる。

### 2023年度 修士論文テーマ

- ▶ インド英語における /v, w, t, d/ の実現形 一音環境と教育歴、ジェンダーの影響について
- ▶ ホモソーシャルな社会における「対幻想」の構築 —『じゃじゃ馬馴らし』と『から騒ぎ』を中心に—
- ▶ 主部内関係節の重音環境におけるDP分析



### カリキュラム一覧

#### 主要科目

英文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
英文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
英文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD  
英文学演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD  
英文学演習ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD  
米文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
米文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
米文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD  
米文学演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD  
米文学演習ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD  
英語学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
英語学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
英語学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD

#### 特修科目

英文学特論ⅠA・ⅠB  
英文学特論ⅡA・ⅡB  
英文学特論ⅢA・ⅢB  
米文学特論ⅠA・ⅠB  
米文学特論ⅡA・ⅡB  
米文学特論ⅢA・ⅢB  
英語学特論A・B  
英語教職特論ⅠA・ⅠB  
英語教職特論ⅡA・ⅡB  
英語教職特論ⅢA・ⅢB  
英語教職特論ⅣA・ⅣB  
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB  
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB

#### 特定科目

英文学特別指定講義Ⅰ  
英文学特別指定講義Ⅱ

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

### 院生からのメッセージ

#### 博士前期課程

#### Master's Program



吉田 ななこ

YOSHIDA Nanako

英文学専攻  
博士前期課程 2年

#### 答えのない探究

私が進学を決意したのは、卒論を執筆している中でも疑問が湧き続け、もっと研究を続けたいと感じたからです。現在は、指導教員のもとでアメリカ女性詩の他、20世紀前半のアメリカ文学作品を中心に学んでいます。学生が少数である分、小説、詩、演劇など様々な文学ジャンルについてご研究されている教員陣のご指導を密接に受けることができ、私の場合は今年度前期はマンツーマンで全ての授業を受けています。卒業直前の進路変更やこれまでの環境と一変すること、同期がいないことに最初は不安がありましたが、先生方と密にコミュニケーションを取ることができ、学びを得られる日々は非常に刺激的です。また、本校は英専協に加入しており他校の科目を履修することができます。そのため、そこでの交流も学びを深める刺激になります。文

学は答えのない問いの研究であるため、一見将来に繋がりにくい分野と捉えられがちですが、視野を広めることができたおかげで培った知識や思考の組み立て方は、自身の専門分野だけではなく様々な局面で今後も役立つと考えています。

Q 師事している教員は？

A 梶原 照子 教授

授業では主に現代女性詩人の作品についての文献を精読し自身の解釈を深める学習をしています。各研究室は少人数のため個別指導が充実しており、疑問や相談があった時に指導教員はもちろんです。その他の先生方にも気軽に相談できる環境は非常に貴重だと思います。

教員情報 P.077

## 仏文学専攻

### 仏文学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

フランスとその文化は、一方ではギリシャ-ローマ、他方ではユダヤ-キリスト教の伝統に深く根ざしながら、常に様々な分野で斬新な創造を続けてきた。その役割は今も縮小してはならず、EU及び世界50ヶ国に及ぶフランス語圏の中心として、そこから学ぶべきものが多々ある。そのような状況の中で、仏文学専攻では、高度なフランス語運用力、フランス文化・思想・文学に関する広範な知識、繊細かつ大胆な国際感覚と実践力を備えた研究者、社会人、文化人の育成を目指す。

### 2023年度 修士論文テーマ

▶ アンニー・エルノーの社会的自伝における父と母の表象



### 院生からのメッセージ

#### 博士前期課程

#### Master's Program



#### 山本 葵野

YAMAMOTO Kino

仏文学専攻  
博士前期課程 2年

#### 未知を突き詰める場所

元々他大学の史学科に所属していた私は卒業論文で、18世紀フランスの学者ディドロが著した『演劇論』をもとに、演劇における身体的重要性について考察を行いました。これがきっかけとなり、より深くフランス演劇と身体の関係について探究したいと思い、明治大学大学院仏文学専攻への進学を決めました。

専門的に学んでいるのは18世紀フランスの演劇に関するのですが、その他の授業も選択して受講しており、そこでは今まで自分が知らなかった哲学や語学の学びを同じ学科、時には別の学科の方も交えて多面的に得ることができ、非常に刺激的です。

大学院での研究は大学時代に比べてより能動的なものになり、自分がたてた問いを細部まで明らかにすることが

求められます。沢山の文献、自分では考えつかなかった他の学生の意見、先生方からのアドバイス、これらすべてが貴重な糧となるため、院に進学した時にはぜひ、臆することなく行動してみてくださいと思います。

#### Q 師事している教員は？

#### A 奥 香織 准教授

仏文学専攻は、先生、先輩方がいつでも親身になって話を聞いてくださるので、新しい環境で緊張していた私もすぐにリラックスして研究に取り組むことができました。普段のゼミでは、戯曲の台本や美術批評などを原文で読み、各々が感じ、考えたことを意見し合っています。

教員情報 P.078

### カリキュラム一覧

#### 主要科目

近代仏文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
近代仏文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
近代仏文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD  
近代仏文学演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD  
現代仏文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
現代仏文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
現代仏文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD  
現代仏文学演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD  
仏語学演習A・B・C・D

#### 特修科目

近代仏文学特論ⅠA・ⅠB  
近代仏文学特論ⅡA・ⅡB  
近代仏文学特論ⅢA・ⅢB  
近代仏文学特論ⅣA・ⅣB  
近代仏文学特論ⅤA・ⅤB  
現代仏文学特論ⅠA・ⅠB  
現代仏文学特論ⅡA・ⅡB  
現代仏文学特論ⅢA・ⅢB  
現代仏文学特論ⅣA・ⅣB  
仏語学特論A・B  
フランス文学理論・思想研究Ⅰ・Ⅱ  
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB  
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB

#### 特定科目

仏文学特別指定講義Ⅰ  
仏文学特別指定講義Ⅱ

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

## 独文学専攻

### 独文学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

ドイツ文学を歴史的コンテキストと現代的アクチュアリティを視野に入れながら研究することによって、ドイツの文化と社会についての理解を深め、日独の交流に役立つような人材を養成することを目的とする。このためには、学術的な討論ができる程度にドイツ語の運用能力を高め、同時にまた、日本のことをドイツ語で語るができるような日本の文化についての深い教養を培う。

### 2023年度 修士論文テーマ

- ▶ 1940年代のノックにおける生と死の「境界」―〈崩壊―越境―報告―
- ▶ 「言葉のピラート」としての〈声〉 ―パウル・ツェランの詩における括弧の用法―



### 院生からのメッセージ

#### 博士後期課程

#### Doctoral Program



#### 石上 淳史

ISHIGAMI Atsushi

独文学専攻  
博士後期課程 1年

### 独文学専攻の魅力

本専攻の魅力は、活発な議論と手厚いご指導です。授業ではテキストについての議論が交わされるため、適切な和訳を考え、テキストを解釈し、自分の意見を持つ、という一連の予習が求められます。院生の知識、興味も多岐にわたり、様々な角度からの意見が集まります。文法的アドバイスや作品の背景など、先生からのご助言によって、討論はさらに深いものになっています。

さらに、本専攻では、毎年7月に院生による専攻内発表会が開催されます。自らの研究成果を発表する場であるため、論文とはまた異なる準備が必要です。そして、発表時には他の院生や先生方との質疑応答があり、学会発表と同じような形式で経験を積むことができます。いただいたご質問やご指摘によって、研究成果はより良いものになるはずで

す。

上記の発表会や大学院の授業には、学部生も参加することができます。私も学部4年次に大学院の授業を受け、進学の意志を固めました。みなさんと議論を交わすことができるのを楽しみにしています。

**Q** 師事している教員は？

**A** 福岡 具子 教授

独文学専攻研究室では、各自にデスクが割り当てられており、研究に集中できる環境が整えられています。また、研究室は、院生同士が意見交換をする貴重な場でもあります。授業や研究に関することはもちろん、進路や生活面についての相談もできるため、精神的に安定して研究を進めることができます。

教員情報 P.078



## 演劇学専攻

### 演劇学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

演劇学専攻では、博士前期課程においては、高度な専門的知識を修得した研究者の養成に加え、幅広く劇作家、演出家、戯曲・演劇の歴史的・理論的著作の翻訳家、演劇制作者などを目指す人材の養成を目的とする。博士後期課程においては、課程博士号の取得を目指す者を含めて、演劇学研究者を目指す人材の養成を目的とする。

### 2023年度 修士論文テーマ

- ▶ 劇団青俳が蜷川幸雄の演出に与えた影響
- ▶ 野田秀樹作『エッグ』作品研究
- ▶ コロナ禍による野田秀樹の演劇観の変化 ～NODA・MAP新作『フェイクスピア』『兎、波を走る』より～
- ▶ ローレン・ハンズベリー『A Raisin in the Sun(日なたの干しぶどう)』における登場人物とその対立



### カリキュラム一覧

#### 主要科目

- 演劇学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
- 演劇学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
- 演劇学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
- 日本演劇演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
- 日本演劇演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD

#### 特修科目

- 演劇学特論ⅠA・ⅠB
- 演劇学特論ⅡA・ⅡB
- 日本演劇特論ⅠA・ⅠB
- 日本演劇特論ⅡA・ⅡB
- 西洋劇文学史特論ⅠA・ⅠB
- 西洋劇文学史特論ⅡA・ⅡB
- 西洋劇文学史特論ⅢA・ⅢB
- 言語芸術論特論A・B
- 総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
- 総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB

#### 特定科目

- 演劇学特別指定講義Ⅰ
- 演劇学特別指定講義Ⅱ

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

### 院生からのメッセージ

#### 博士前期課程

#### Master's Program



#### 高尾 流河

TAKAO Ruka

演劇学専攻  
博士前期課程 2年

#### 大学院進学という選択

私は学部時代、コロナ禍で演劇の不要不急が叫ばれ、大学に通えないまま就職活動が迫るなか、「もっと心の余裕と時間を持って演劇を研究し、楽しみたい」と思い、大学院進学を決めました。同級生たちと異なる進路を歩むことへの不安はあったものの、大学院では先輩や同期、教授の先生方と今までにないほど演劇研究について意見交換をし、演劇研究の広さと皆さんの研究への熱に、刺激的な毎日を送ることができています。

また、私は演劇におけるメロドラマの表現と社会性について研究しています。まだ完成されていない研究分野ということもあり、迷うことも多々あります。そんなときには、ゼミや講義で先生や先輩からアドバイスを受け、一人で悩むことなく研究を進められています。

私の考える限り、大学院進学という選択は、深遠な知識の領域に触れ、自分の意志や考えによってその世界を切り開く機会を得ることだと思います。そして、その経験は学術の世界に留まらず、これからの人生において生き続けると信じています。

Q 師事している教員は？

A 井上 優 教授

私の所属する研究室では、各学生の研究テーマや進捗についての口頭発表と西洋演劇に関する論文を中心とした講読を行っています。また、それらに対して一人一人が自由に意見や疑問を発することができる、ひらけた研究環境があります。考えを深め、交換していくなかで、日々新たな気づきを得ることができます。

教員情報 P.079



## 文芸メディア専攻

### 文芸メディア専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

文芸メディア専攻は、「メディア環境の中の文芸」という立場を設定し、メディアとは何かという問題意識を重く踏まえた上で、「文芸というメディア」及び「メディアとしての文芸」の視座から文芸研究・メディア研究に取り組む。文芸への深い知識と教養を兼ね備えながら、言語テキストとそれが置かれたメディア環境の相互的関連を視野に収める専門的知識人の育成を目指す。

### 2023年度 修士論文テーマ

▶ 阿久悠のテレビへの挑戦 — テレビ時代における「架空の幸福感」の解体とその功罪 —



### カリキュラム一覧

#### 主要科目

文芸メディア演習IA・IB・IC・ID

文芸メディア演習IIA・IIB・IIC・IID

文芸メディア演習IIIA・IIIB・IIIC・IIID

文芸メディア演習IVA・IVB・IVC・IVD

文芸メディア演習VA・VB・VC・VD

文芸メディア演習VIA・VIB・VIC・VID

#### 特修科目

文芸メディア特論IA・IB

文芸メディア特論IIA・IIB

文芸メディア特論IIIA・IIIB

文芸メディア特論IVA・IVB

文芸メディア特論VA・VB

文芸メディア特論VIA・VIB

日本文芸史特論A・B

表象文化特論A・B

表現創作特論A・B

メディア分析特論A・B

近現代文芸特論A・B

伝承文学特論A・B

総合文学研究IA・IB～VA・VB

総合史学研究IA・IB～VIA・VIB

#### 特定科目

文芸メディア特別指定講義I

文芸メディア特別指定講義II

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

### 院生からのメッセージ

#### 修士課程

#### Master's Program



深田 陽菜

FUKATA Haruna

文芸メディア専攻  
修士課程 2年

#### 物語ることを通じ、「人」を探求する

私は伝承を主な研究対象とし、様々な記載文芸や口承文芸、あるいは民俗の観点から、その源流を辿る学びを行っています。

昔から語り継がれた物語が現在にも息づいているように、またこの瞬間も多くの文芸作品が生み出されているように、「物語ること」は人類に普遍的な行為であり、恐らくこの先もそれが止むことはないでしょう。特に古い物語の源には「私はどこからきて、どこへゆくのか」といったような、「人」の持つ最も原初的な問いが流れているように思われ、私は幼い頃からその深遠さに惹かれてきました。そうした巨大な掴みたい影を追って自らの探求の歩を進めていける場所、それが許されている場所が大学院であると感じています。

文学研究はとても孤独な行為です。もちろん先生方は温

かく手を差し伸べて下さいますが、文献を読み、調べ、発想を積み上げる、そのどれもが最後には一人で行うべきことです。そしてこれは辛いと共に、自分自身と向き合えるとても贅沢な時間であると感じています。各々の孤独の中で、皆さんに出会える日を楽しみにしています。

Q 師事している教員は？

A 佐伯 和香子 講師

御伽草子を中心とした古典テキストを講読し、各々が課題を設定して周辺を取り巻く伝承や背景について調べあげ、発表するというサイクルが主です。講義内では文献についての議論はもちろん、関連する他のジャンルや分野に関する話も交わされるため、自分では気づいていなかった可能性に目をひらくことができます。

教員情報 P.080

## 史学専攻

### 史学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

史学専攻は、日本史・アジア史・西洋史・考古学の4専修から構成され、研究素材である各種史資料の分析に基礎を置く実証主義と歴史を生み出したフィールドを重視する実践主義を教育・研究の柱とし、学際的・国際的視点を伝統的に重視している。近年は、専攻が属す研究科の特性を生かし、文学研究科諸専攻との学際協力も緊密である。その研究・教育を通じ、史学専攻は、歴史学の専門研究者及び教育者並びに豊かな歴史への素養を身につけた高度教養人を育成することを目的とする。

#### 日本史学専修

日本史学専修は、日本の歴史を多様な視座から究明するとともに、その統一的把握を目指す。その研究・教育は、各種史資料の批判的検討やフィールドワーク等による実証を基礎とするとともに、視野を隣接諸科学にも広げ、また、国際的視野に立つことを目指す。日本史学専修ではそのような教育・研究の実践を通じ、日本史学の専門的研究者・教育者及び日本史学の高度な素養を身につけた教養人の育成を目標とする。

#### アジア史専修

アジア史専修は、中国・朝鮮の東アジア史研究を大きな柱に、西アジア史をもう一つの柱に据え、文献資料や出土史料の分析だけでなく、現地調査や外国研究者との交流も積極的に推進して研究を進める。博士前期課程ではアジア諸地域に対する深い学識を持った高度教養人を、博士後期課程では国際的発信力を持った研究者を養成する。

#### 西洋史学専修

西洋史学専修は、人間社会の歴史的探求をその本旨とするが、中でも西洋の古代から現代までを見通してそれを行う。また、世界に対する幅広い見識と歴史についての深い理解と教養を身につけて、それを基に自分自身をしっかりと表現でき、人類の発展に寄与できる人間形成を目指す。

#### 考古学専修

考古学は、遺跡・遺物といった物質資料に基づき文字の無い時代を含めた歴史の再構築を目指す学問である。その教育・研究は、発掘・測量調査又は遺物実測などによる現場性・実証性を基礎に置くと同時に、視野を隣接諸分野・諸外国に広げ、考古学的研究成果を歴史学の大きな枠組みの中に位置づけることを目指す。本専修では地道な基礎研究に加えて、学際的・国際的研究活動に参加することを通じて、考古学の専門的研究者、地方自治体の文化財担当者、博物館学芸員、教育者及び考古学の高度な素養を身につけた教養人の育成を目的とする。

### カリキュラム一覧

主要科目	特修科目
<b>【日本史学専修】</b> 日本史学研究ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD 日本史学研究ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 日本史学研究ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD 日本史学研究ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD 日本史学研究ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD 日本史学研究ⅥA・ⅥB・ⅥC・ⅥD 日本史学研究ⅦA・ⅦB・ⅦC・ⅦD 日本史学研究ⅧA・ⅧB・ⅧC・ⅧD 日本史学研究ⅨA・ⅨB・ⅨC・ⅨD 日本史学研究ⅩA・ⅩB・ⅩC・ⅩD	日本史特論ⅠA・ⅠB 日本史特論ⅡA・ⅡB 文化史特論A・B 思想史特論A・B アジア史特論ⅠA・ⅠB アジア史特論ⅡA・ⅡB 西洋史特論ⅠA・ⅠB 西洋史特論ⅡA・ⅡB 考古学特論ⅠA・ⅠB 考古学特論ⅡA・ⅡB 考古学特論ⅢA・ⅢB 考古学フィールドワークA・B 総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB 総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
<b>【アジア史専修】</b> アジア史研究ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD アジア史研究ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD アジア史研究ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD アジア史研究ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD アジア史研究ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD	<b>【考古学専修】</b> 考古学研究ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD 考古学研究ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 考古学研究ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD 考古学研究ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD 考古学研究ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD
	<b>【特修科目】</b> 史学特別指定講義Ⅰ 史学特別指定講義Ⅱ

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

### 2023年度 修士論文テーマ

#### 日本史学専修

- ▶「逆賊」会津の復讐とその後—1928年イタリヤ寄贈白虎隊記念碑を通して—
- ▶明治文化研究会に関する総合的研究—その史学史的な位置づけ—
- ▶川路利良による警察制度改革とその構想—東京警視庁に着目して—
- ▶南北朝・室町期の都市京都における飢饉と飢民
- ▶律令考課制度の研究
- ▶近世南会津の本山派修験—修験組織及び地域との関係性—

#### アジア史専修

- ▶ソ連の中国東北地方占領期における国民党機関紙「中央日報」の報道について
- ▶清末期における中国人日本留学生の漢訳日本語—湖北師範生編訳の『師範教科叢編』を例として—
- ▶サファヴィー帝国政治史におけるエスマーイル2世(1576-7)の位置づけ—16世紀後半「第2次内乱期」の実態解明の一端として—

- ▶明代後期の辺境地帯に勃興した武臣一門—蔚州馬氏と大同麻氏を中心として—
- ▶オスマン帝国末期からトルコ共和国初期における考古学調査—アラジャ・ホックの事例から—

#### 西洋史学専修

- ▶ナチ期ウィーンの混合婚家族に対する人種政策の構造—「解放」と排除の狭間で—

#### 考古学専修

- ▶弥生時代中期中葉南信・東遠江地域の土器の成立過程
- ▶縄文時代晩期中葉の関東地方を中心とした「道具としての土器」の研究—狩猟採集社会から稲作農耕社会への煮沸用土器の特質の変化を捉える—
- ▶古墳時代中期における衝角付甕の生産体制
- ▶単龍単鳳環頭大刀の研究

## 院生からのメッセージ

### 博士前期課程

### Master's Program



清水 聖也

SHIMIZU Seiya

史学専攻 日本史学専修  
博士前期課程 2年

### 史料を読み、社会を読み、世界を読み、自分を知る

私は近代以降日本教育史、とりわけアジア太平洋戦争下の国民学校の教育実践を研究しています。明治大学の研究環境は充実しています。多様な学生支援制度、ゼミの活発さ、蔵書数の豊富な大学図書館、各種資料館へのアクセスがよい点などが魅力的です。私は将来教員になることを志望しています。「研究者マインド」を持った教員とは何か。それを求め、日々史料に向き合い、仲間とのディベートを通し、自身の思考を深化させています。

Q 師事している教員は？ A 山田 朗 教授

山田ゼミは院生による研究発表、研究書の輪読、巡検などを行っています。他の日本史専攻専任教員、他大の院生、留学生なども参加しており、毎回議論が活発に行われています。様々なバックグラウンドをもつゼミ生同士の交流は、研究内外においても刺激的です。

教員情報 P.080

### 博士前期課程

### Master's Program



神野 颯人

KAMINO Hayato

史学専攻 アジア史専修  
博士前期課程 2年

### 拡がる環境、深まる知見

私は近世インド・イスラム時代における建築と、権力及び宮廷儀礼の在り方について研究を行っています。卒業論文執筆時点の自身の研究に物足りなさを覚え、進学を決意しました。大学院では、意欲を示す限り先生方はどこまでも応えてくださります。また外部との交流も含めて、自身だけの研究環境を作り出すことも可能です。自身が興味を寄せる学問に最適な環境、そして無数の学びがここには在ります。更なる研究に関心がある、その一心で十分です。是非、大学院で共に研鑽しませんか。

Q 師事している教員は？ A 江川 ひかり 教授

本研究室は、主に西アジアを中心としたイスラム史を研究対象としています。銘々の研究の地域や時代は多様で、史料上の言語も異なるため、研究上の共通言語として英語が用いられることが特徴です。様々な背景知識を持つ学生が集うこの場では、多角的で相対化された知見を涵養する議論が展開されています。

教員情報 P.081

### 博士前期課程

### Master's Program



地齋 瑠華

JISAI Ruka

史学専攻 西洋史学専修  
博士前期課程 2年

### 多様な視点から過去の人々の営みに対峙する場所

大学院では、異なる地域や時代を研究している多くの先生方とともに、様々なテーマについて分析し、議論する機会がたくさんあります。私は明治大学文学部を卒業後、4年間の社会人生活を経て、もう1度大学に戻りました。社会人を経験する中で、歴史学が、社会や日常生活で生じる問題に対して、その解決のために何かしらのヒントを与えてくれると感じたからです。そのような私にとって、多様な視点やテーマを扱う大学院は、自分の考えや研究を深められる非常に刺激的な場所です。

Q 師事している教員は？ A 青谷 秀紀 教授

研究室では西洋中世史に関する様々なテーマについて講読を行っています。各ゼミ生の研究内容が異なるので、多様な視点から議論が展開される他、時代範囲を広げて議論を行うこともあります。日本語文献だけではなく外国語文献も扱うので、議論の内容だけではなく語学面でも自分の研究に活用できる点が多いです。

教員情報 P.081

### 博士前期課程

### Master's Program



酒井 亮人

SAKAI Akito

史学専攻 考古学専修  
博士前期課程 2年

### 広大な知識のフィールドで、深く広い研究を

私は古墳時代の韓式系土器と呼ばれる朝鮮半島由来の土器から、古墳時代の渡来人について研究しています。大学院では少人数での授業が基本で学部と比較して先生方や院生たちと共有する時間が長いのが特徴です。院生同士も仲が良く、研究が息詰まった際に同期の院生から意見を聞くなど互いに助け合いながら研究に励んでいます。明治大学では旧石器時代から古墳時代までの様々な分野を専門とする学生がおり、幅広い視点から研究を行えることが利点です。また明治大学の所有する蔵書は国内外問わず非常に豊富で研究を行う上で恵まれた環境です。

Q 師事している教員は？ A 若狭 徹 教授

私が所属している考古学研究室は各時代の様々な考古資料が収蔵されています。研究室では授業の一環で実測、拓本を取るなど実際の資料に触れる機会が多いです。所属する学生は研究テーマが様々で交流する中で新たな発見や視点を提供してくれます。

教員情報 P.082



## 地理学専攻

### 地理学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

地理学専攻は、グローバルな空間的視野を重視しつつ、都市や村落及びその複合体の地域構造を、社会・文化・経済・産業・行政・自然条件等の観点から実証的に探究する能力を持つ人材の育成を目的とする。その方策として、深い専門知識獲得のための体系的な学習指導を徹底し、かつ、フィールドワークによる継続的な実地教育と研究指導を実践する。

### 2023年度 修士論文テーマ

- ▶ 沖縄島における石灰岩堤の分布と成長プロセス ―琉球石灰岩地域の崖付近にはたらく差別的な溶食に着目して―
- ▶ 小笠原返還と新たな島嶼社会の構築をめぐる実践



### カリキュラム一覧

#### 主要科目

自然地理学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
 自然地理学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
 人文地理学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
 人文地理学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
 人文地理学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD  
 地誌学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD  
 地誌学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD  
 地理学合同演習A・B・C・D

#### 特修科目

自然地理学特論ⅠA・ⅠB  
 自然地理学特論ⅡA・ⅡB  
 人文地理学特論ⅠA・ⅠB  
 人文地理学特論ⅡA・ⅡB  
 地誌学特論ⅠA・ⅠB  
 地誌学特論ⅡA・ⅡB  
 地理学フィールドワークA・B  
 総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB  
 総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB

#### 特定科目

地理学特別指定講義Ⅰ  
 地理学特別指定講義Ⅱ

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

### 院生からのメッセージ

#### 博士後期課程

#### Doctoral Program



#### 小島 千佳

KOJIMA Chika  
 地理学専攻  
 博士後期課程 3年

#### 私にとっての最適解

私は、他大学で前期課程を修了した後、明治大学の博士後期課程に進学しました。現在は、フランス・パリの都市空間を社会地理学的観点から研究されてきた荒又先生のもとで、ドイツ・ベルリンにおけるジェントリフィケーションと立ち退きに関する研究に取り組んでいます。明治大を選んだ理由には、同じヨーロッパを研究対象としている先生からの指導を必要としていたことや、複数の先生からの分野横断的な助言を求めていることがあります。

新たな環境に身を置くというのは、大きな挑戦ですね。私は、心を砕いてくださる指導教員の荒又先生や、励ましの言葉をかけてくださる教室の先生方、そして向上心に満ちた仲間恵まれて、挑戦してみてもよかったなと思っています。また、経済支援制度が充実しているため、研究対象

地が国外でも、調査費の工面に頭を悩ませることなく研究に集中することができます。私のように、海外を対象とした研究をしていたり、経済的な不安があったりしても、背中を押してくれる人がここにはいます。なので、安心して門を叩きにきてください。

Q 師事している教員は？

A 荒又 美陽 教授

明治大学の地理学教室では、人文地理・自然地理の両分野を専攻する院生が共に学んでいます。教室の規模が大きいため、幅広いご専門の先生方が在籍されており、様々な観点からご助言をいただけます。また、フィールドワークに重きを置く教室でもあるため、調査能力の向上を目指すことができます。

教員情報 P.082

## 臨床人間学専攻

### 臨床人間学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

今日の人間社会は、政治・経済・文化・教育の構造的変化を伴う未曾有の変動期を迎え、既成の価値観や人間関係の在り方を根底から揺るがす変化と混乱の事態に直面している。臨床人間学専攻は、現代社会が直面するこうした状況における心理・社会的危機の克服に向けて、個々の地域社会や個人を実践的に支援する専門家及び公的セクターで貢献する実践者を育成するとともに、直面する危機的状況のメカニズムを解明するための研究者を育成することを目的とする。

### 臨床心理学専修

臨床心理学専修は、今日の社会において緊急性の高いニーズである「心のケア」、すなわち、うつ病や不安障害等の心の病気、不登校やいじめ、無気力等の学校不適応、育児ストレス、児童虐待、家庭内暴力等の家族関係の問題など、あらゆる世代の個人及び様々な集団において生じる心理・社会的諸現象への専門的対処に直接的かつ具体的にアプローチする臨床心理学の専門家の養成と実践的な研究の推進を目指す。

### 現代社会学専修

現代社会は、地球温暖化をはじめとする環境や生命の危機、グローバル化と情報化にともなう政治・経済・文化の構造変化と格差拡大などの新たな問題、また世界的な人権意識の向上、差別解消や格差是正への要求の高まりなどをかかえ、社会システムのあり方を、持続可能でより平等で人権が尊重されるものに根底から作り変えるべき重要な地点にある。現代社会学専修は、現代社会の危機や新たな社会的問題の克服と、よりよい社会の創生に向けて、複雑な状況のメカニズムを解明する研究者と、具体的な活動に取り組む専門家および実践者を育成することを目的とする。

### 教育学専修

教育学専修は、多文化共生社会、およびデジタルアーカイブを主要な構成要素とする知識基盤社会における人間形成と生涯にわたる学びが重視される今日、「教育」という事象を教育現場と教育実践に焦点をあてつつ、教育学、社会教育学、博物館学および図書館情報学の4領域による横断的・多角的な教育研究をととして、現代社会に求められる教育に関する幅広い知見と高度な専門知識を有した人材を育成するとともに、学校、公民館、博物館、図書館等の教育関係機関における教育実践を担う専門職の養成と再教育を目的としている。

## カリキュラム一覧

<b>専攻必修科目</b>
臨床人間学総合演習A～D
<b>【臨床心理学専修】</b>
<b>専修必修科目</b>
臨床心理学特論A・B
臨床心理面接特論I(心理支援に関する理論と実践)
臨床心理面接特論II
臨床心理基礎実習A・B
臨床心理実習I(心理実践実習I)・臨床心理実習II
臨床心理査定演習I(心理的アセスメントに関する理論と実践I)
臨床心理査定演習II
<b>選択必修科目</b>
[A群] 心理学研究法特論(心理的アセスメントに関する理論と実践IV)
心理統計法特論(心理的アセスメントに関する理論と実践III)
[B群] 発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開II)
人格心理学特論(心理的アセスメントに関する理論と実践II)
[C群] 社会心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)
犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)
[D群] 精神医学特論I(保健医療分野に関する理論と支援の展開I)
心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開II)
障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開I)
健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)
[E群] 心理療法特論
グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践I)
コミュニティアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践II)
学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)
投映法特論A・B
臨床心理特別実習IA・IB(心理実践実習IIA・IIB)
臨床心理特別実習IIA・IIB(心理実践実習IIIA・IIIB)

<b>特定科目</b>
臨床人間学特別指定講義I
臨床人間学特別指定講義II
<b>【現代社会学専修】</b>
<b>専修必修科目</b>
現代社会学総合演習A 現代社会学総合演習B
<b>選択必修科目</b>
現代社会学演習IA・IB 現代社会学演習IIA・IIB
現代社会学演習IIIA・IIIB 現代社会学演習IIIA・IIB
現代社会学演習VA・VB
<b>選択科目</b>
共生ネットワーク論 バイオポリティクス論
社会福祉論 NPO市民活動論
コミュニティビジネス論 コミュニティ人間関係論
コミュニティデザイン論 地域開発論
地方自治論

<b>【教育学専修】</b>
<b>専修必修科目</b>
教育学総合演習A 教育学総合演習B
<b>選択必修科目</b>
A群(教育学領域) 教育学演習IA～ID
教育学演習IIA～IID
教育学演習IIIA～IIID
教育学演習IIIA～IIID
B群(社会教育学領域) 社会教育学演習IA～ID
社会教育学演習IIA～IID
C群(博物館学領域) 博物館学演習IA～ID
博物館学演習IIA～IID
D群(図書館情報学領域) 図書館情報学演習IA～ID
図書館情報学演習IIA～IID
図書館情報学演習IIIA～IIID
図書館情報学演習IIIA～IIID
<b>選択科目</b>
A群(教育学領域)
教育システム論 思春期・青年期論
教師教育論 教育人間学
教育社会史特論 教授学習心理学特論
B群(社会教育学領域)
生涯学習特論 社会教育実践論
C群(博物館学領域)
博物館学特論 博物館マネジメント特論
博物館教育論特論 博物館メディア論特論
地域博物館論特論
D群(図書館情報学領域)
図書館情報学特論 専門図書館特論
情報サービス特論 図書館経営特論
図書館文化特論 図書館情報メディア特論
E群(社会学領域:現代社会学専修設置選択科目)

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

## 院生からのメッセージ

## 博士前期課程

Master's Program



## 山川 華奈

YAMAKAWA Hana

臨床人間学専攻  
臨床心理学専修  
博士前期課程 2年

## 広く深い視野を持つ心のケアの専門家を志せる場所

先生方をはじめとして、心理臨床センターや明治大学子どものこころクリニックのスタッフのみなさん、研究会や事例検討会で出会うOB・OG、そして豊富な実習先で関わる心のケアに従事する専門家から、多様で専門性の高い学びを得ることができます。また、共に学ぶ学生の結びつきも強く、授業・実習・研究と忙しい日々もお互いに支え合い、切磋琢磨しながら乗り越えていける環境です。本大学院での経験が、心のケアの専門家としての第一歩に自信を持たせてくれることでしょう。

Q 師事している教員は？ A 伊藤 直樹 教授

臨床・研究において学生相談や教育相談、特別支援教育をご専門にされている伊藤先生の丁寧な指導のもと、研究に励んでいます。本専攻では研究室の垣根を超えた交流が多く、それぞれが関心を持ったテーマについて先生方や学生の様々な視点を得て、納得のいく研究を行うことができます。

教員情報 P.083

## 博士前期課程

Master's Program



## 佐藤 瑞紀

SATO Mizuki

臨床人間学専攻  
現代社会学専修  
博士前期課程 2年

## 研究は孤独じゃない

学部生時代は哲学専攻に所属し、現在は現代社会学専修でジェンダーに関する研究を行っています。明治大学大学院の魅力のひとつは、所属の研究科以外の授業も受講することができ、様々な考え方や見方を学べることです。また学生支援も充実しており、日常の困りごとから研究に関する悩みまで、どの場面でも解決するまで手を貸してくれる人が必ず見つかります。

論文は自分で執筆するものですが、そこに至るまではたくさんの人が周りにいてくれます。皆さんも大学院で研究してみませんか。

Q 師事している教員は？ A 平山 満紀 准教授

平山研究室では幅広くジェンダーに関する研究を行っています。自身の研究とは関係ないように思われたテーマでも、ディスカッションを通じて新たなアイデアが生まれることが頻繁にあります。また、研究発表では質疑応答によって研究への自身の理解を深め、ブラッシュアップさせることができます。

教員情報 P.084

## 博士前期課程

Master's Program



## 尾崎 草太

OZAKI Sota

臨床人間学専攻  
教育学専修  
博士前期課程 2年

## 他分野との交流の中で知的好奇心を育める場所

更に知識を蓄えて「教員」という夢に近づきたい！という気持ちが、私の大学院進学の原因力でした。

私は昨年まで法学部に学び、その傍らで教育実習に参加しました。そして今は、教育学専修で「主権者教育」を研究しています。私同様、学部生時代は他分野を専攻された方が多い環境です。日々多様な角度から知的好奇心を刺激され、充実した時間を過ごせます。大学院に緊張感を覚える方もおられると思いますが、緊張感以上に新発見の連続からくる楽しさにきっと魅了されるはずですよ！

Q 師事している教員は？ A 山下 達也 教授

私の所属する教育学専修では、各々が関心に沿った文献を持ち寄り、考えたことを自由に議論しています。教育学という共通項はありますが、先述の通り異なる背景から、異なる関心を持った集まりです。自分一人では到底気付かないようなことを指摘され、考えを深められる点に魅力があると感じています。

教員情報 P.085

## 2023年度 修士論文テーマ

## 臨床心理学専修

- ▶性的二重規範と性的コミュニケーション及び関係満足感の関連の検討
- ▶オンライン・グルーミングの被害経験に関連する個人の要因と、周囲のサポートが与える影響の検討
- ▶長期ひきこもり者の親が精神的困難を体験するプロセスについての研究
- ▶非臨床群における性的空想のひとつとしての痴漢をするという空想のありよう痴漢の実行に対する抑制の可能性についての質的検討
- ▶大学生が学生相談室相談の際に求めるもの  
—学生が必要とするアウトリーチ活動という観点を踏まえて—
- ▶新卒社会人のリアリティ・ショックに影響を与える要因の検討
- ▶中途入社者用職場適応ストレス調査票の作成  
—職場不応の予防におけるストレスラー、コーピング、ソーシャルサポートの機能の検討—
- ▶否定的な被養育経験を持つ心理臨床家の変容過程についての一考察
- ▶母娘間葛藤緩和プロセスに関する研究 —母娘間葛藤を経験した未婚女性に着目して—
- ▶自発的無子に関する探索的研究 —心理的側面から—

## 臨床社会学専修 臨床社会学コース(現:現代社会学専修)

- ▶文化大革命期の天津市における多重権力—国家再建の試み—
- ▶現代中国の中流上層の若い世代における代理出産に関する認識
- ▶中国における大学生のデートDVに関する認識と経験—質的、量的調査と分析より—
- ▶成功した再生可能エネルギー事業による地域振興のその後と課題—岩手県葛巻町の事例から考える—
- ▶日本における仮放免者への支援のあり方に関する研究—欧米の難民保護との比較から—

## 臨床社会学専修 臨床教育学コース(現:教育学専修)

- ▶教育における「障害」の境界—障害カテゴリーから特別な教育的ニーズ概念へ—
- ▶ペンギン展示のあり方からみる動物園・水族館の教育活動の検討
- ▶幕末・明治前期におけるミュージアム理解と博物館概念構築の過程
- ▶私学における教員養成と教職課程履修学生の教育実習に対する意識—私立一般大学の事例を中心に—
- ▶最晩期二クラス・ルーマンの教育論とその人間形成観—「決定することの学習」という概念を中心に—
- ▶戦争展示ミュージアムにおける加害展示の共通点—ミュージアムが自由に展示するための環境と条件—



# 文学研究科

## 教員一覧

### 日本文学専攻

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

小野 正弘  
ONO Masahiro

教授 研究分野 日本語の史的研究  
(文字・語彙・意味)



【最終学歴】東北大学大学院 【担当授業科目】国語学演習/国語学特論 【研究テーマ】意味変化の研究(特に、中立的意味のプラス・マイナス化) 【主な著書・論文】『オノマトペがあるから日本語は楽しい』(平凡社)/『日本語 オノマトペ辞典』(小学館)/『ケーススタディ 日本語の歴史』(おうふう)/『感じる言葉オノマトペ』(角川学芸出版)/『くらべてわかるオノマトペ』(東洋館出版)

山崎 健司  
YAMAZAKI Kenji

博士(文学) 教授 研究分野 日本古代の詩歌



【最終学歴】筑波大学大学院 【担当授業科目】日本古代文学演習I/日本古代文学特論I 【研究テーマ】萬葉集の編纂と伝来/大伴家持の作品/日本古代韻文の表現技法 【主な著書・論文】『大伴家持の歌群と編纂』(塙書房・2010年)/『萬葉集巻二十終末部の作品と編纂』(『古代学研究所紀要』30号・2021年)/『萬葉集の本文解釈学的研究』(『明治大学人文科学研究所紀要』86冊・2020年)/『うら悲しき景』(『国語と国文学』94巻4号・2017年)

杉田 昌彦  
SUGITA Masahiko

博士(文学) 教授 研究分野 日本近世文学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】日本近世文学演習/日本近世文学特論 【研究テーマ】江戸時代の国学、とりわけ本居宣長の研究 【主な著書・論文】『宣長の源氏学』(新典社・2011年11月)

牧野 淳司  
MAKINO Atsushi

博士(文学) 教授 研究分野 平家物語と中世寺院文化研究



【最終学歴】名古屋大学大学院 【担当授業科目】日本中世文学演習/日本中世文学特論 【研究テーマ】延慶本平家物語の注釈的研究/中世寺院資料と唱導説経についての基礎的研究 【主な著書・論文】『延慶本平家物語』と寺社の訴訟文書』(『中世文学』五十二号)/『真福寺善本叢刊 法儀表白集』(共著・臨川書店)/『国立歴史民俗博物館蔵「転法輪抄」翻刻と解題』(共著・『国立歴史民俗博物館研究報告』第188集)

竹内 栄美子  
TAKEUCHI Emiko

博士(人文科学) 教授 研究分野 日本近代文学



【最終学歴】お茶の水女子大学大学院 【担当授業科目】日本近代文学演習I/日本近代文学特論I 【研究テーマ】プロレタリア文学や戦後文化運動を戦争・ジェンダー・植民地の観点から研究している。 【主な著書・論文】『種蒔く人』の射程』(共著・秋田魁新報社・2022年)/『アナキズムを読む』(共著・皓星社・2021年)/『新編日本女性文学全集』第9巻(編著・六花出版・2019年)/『中野重治・堀田善衛往復書簡1953-1979』(共編著・影書房・2018年)/『アジアの戦争と記憶』(共著・勉誠出版・2018年)/『大衆とサークル誌』(ゆまに書房・2017年)

生方 智子  
UBUKATA Tomoko

博士(文学) 教授 研究分野 日本近代・現代文学



【最終学歴】成城大学大学院 【担当授業科目】日本近代文学演習III/日本近代文学特論III 【研究テーマ】近代小説に描かれる欲望と幻想の形態 【主な著書・論文】『精神分析以前無意識の日本近代文学』(翰林書房・2009年)/『上演される〈西洋〉とリアリティの更新—第二次「新思潮」における青年文化の展開』(『文学・語学』218・2017年)

郭 南燕  
GUO Nanyan

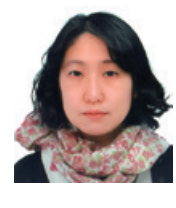
博士(人文科学) 教授 研究分野 日本近代文学、比較文学、日本文化



【最終学歴】お茶の水女子大学大学院 【担当授業科目】日本文学演習/日本文化学演習 【研究テーマ】日本文学における東西交流、日本語学、東アジアの基督教伝播 【主な著書・論文】『バイリンガルな日本語学』(編著・三元社・2013)/『志賀直哉で世界文学を読み解く』(単著・作品社・2016)/『キリシタンが拓いた日本語学』(編著・明石書店・2017)/『ザビエルの夢を紡ぐ』(単著・平凡社・2018)/『ド・ロ版画の旅』(編著・創樹社美術出版・2019)/『宣教師の日本語学 研究と目録』(編著・勉誠出版・2023)

湯浅 幸代  
YUASA Yukiyo

博士(文学) 准教授 研究分野 平安文学に描かれる「王権」や「もののけ」、「魂」と「心」の表現。源氏物語受容史。



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】日本古代文学演習II/日本古代文学特論II 【研究テーマ】物語文学に描かれる王権構造の特質と表現。古注釈をはじめとする『源氏物語』受容史 【主な著書・論文】『平安文学と滝口』(『国語と国文学』2021年4月)/『源氏物語』の歌物語性について—兄妹間の恋愛描写と異母妹の歌「たままこの道交ひなりし君なれば〜」から—(『古代学研究所紀要』30号・2021年3月)/『源氏物語の史的意識と方法』(新典社・2018年)/『江戸中期の源氏物語注釈書・土肥経平「花鳥芳晴」について』(原岡文子・河添房江編『源氏物語煌めくことばの世界II』翰林書房・2018年)

田口 麻奈  
TAGUCHI Mana

博士(文学) 准教授 研究分野 日本近現代文学、近現代詩



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】日本近代文学演習II/日本近代文学特論II 【研究テーマ】国家や社会といった近代的共同性と日本の詩的言語の関係性 【主な著書・論文】『空白の根底—鮎川信夫と日本戦後詩』(思潮社・2019年)/『一九五〇年代の詩壇と鮎川信夫』(『文学』17巻3号・2016年)/『詩にとって同時代性とは何か—(荒地)から二〇一〇年代へ』(『日本現代詩歌研究』12号・2016年)/『戦後詩への架橋I』(ゆまに書房・2014年)/『鮎川信夫(病院船日誌)と主体のゆくえ』(『日本近代文学』93集・2015年)/『安西冬衛・国家的ロマンティズムの反転—詩誌「亞」における方法と提出—』(『国語と国文学』87巻1号・2010年)

甲斐 雄一  
KAI Yuichi

博士(文学) 准教授 研究分野 唐宋詩を中心とする中国古典文学



【最終学歴】九州大学大学院 【担当授業科目】漢文学演習 【研究テーマ】宋代における、出版文化を背景とした文学作品の流通と受容について 【主な著書・論文】『南宋の文人と出版文化—王十朋と陸游をめぐって—』(九州大学出版会・2016年)/『名公妙選陸放翁詩集』所収の陸游詩について』(論文・『日本宋代文学学会報』1・2015年)

### 英文学専攻

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

**サトウ, ゲイル K.** Ph.D. 教授 **研究分野** Asian American literature, 20th-century American literature, War memory



【最終学歴】Brown University, Ph.D. in English 【担当授業科目】米文学演習II 【研究テーマ】Transpacific Narratives of WWII, Literature and Post-Trump Politics 【主な著書・論文】“Witnessing Atrocity through Auto-bio-graphy: Wing Tek Lum’s *The Nanjing Massacre: Poems*,” *Inter-Asia Cultural Studies* 13.2 (June 2012): 211-225. / “Lunchbox-Toolbox: GKS1350021 and Nuclear Engineers,” *Reflections on the Fukushima Daiichi Nuclear Accident*: (Springer, 2015), 413-434.

**野田 学** 教授 **研究分野** 英国演劇・言語身体論・演技受容史 (特に18世紀英国)



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】英文学演習II 【研究テーマ】英国演劇(初期近代、18-19世紀および現代) / 演技・演出論および演技身体論、身体受容を巡る科学史、18世紀の英国経験主義を中心とした言語哲学 【主な著書・論文】“The Fabric of Traditional Theatre: Archived Memories and the Question of Cultural Ownership” (*Critical Stages* 7, 2012年12月, web) / 「演劇性という思考: ウィリアム・ハズリットのキーン評と開かれた自己」(『文芸研究』明治大学文学部紀要129号・2016年)。

**石井 透** Ph.D. 教授 **研究分野** 理論言語学



【最終学歴】カルフォルニア大学アーバイン校大学院 【担当授業科目】英語学演習II 【研究テーマ】統語理論・比較統語論 【主な著書・論文】“The Phase Impenetrability Condition, the Vacuous Movement Hypothesis, and *That-t* Effects,” in *Lingua* Vol.114 Issue 2, Elsevier, 2004. / “A Nonuniform Analysis of Overt Wh-Movement,” in *Linguistic Inquiry*, Vol.37 Issue 1, MIT Press, 2006. / “On the Relaxation of Intervention Effects,” in L. Cheng and N. Corver (eds.), *Wh-movement Moving on*, MIT Press, 2006.

**大山 るみこ** Ph.D. 教授 **研究分野** 映像記号論 / 文体論



【最終学歴】ロンドン大学大学院 【担当授業科目】英文学演習III 【研究テーマ】Multimodal Texts 分析、文学教育とMultimodality 【主な著書・論文】“Visual Meaning: a Social semiotic Approach” in *The Handbook of Visual Analysis* (共著) Sage, UK (2000); “言語化されないことの意味—カズオイシグロ A Pale View of Hills におけるテキストの「空白」を考察する。”(『文体論研究(第58号)日本文体論学会創立50周年記念号』日本文体論学会・2012年) / “Reading as designing: A multimodal approach to literary texts” in *Punctum. International Journal of Semiotics. Multimodality in Education*, Vol5, Issue 1, 2019年

**梶原 照子** 博士(文学) 教授 **研究分野** アメリカ文学・文化



【最終学歴】立教大学大学院 【担当授業科目】米文学演習IV 【研究テーマ】アメリカ文学、特に、アメリカ詩における身体的な言説の系譜、文学ジャンルとモダニティの関係を探索。Walt Whitman に焦点 【主な著書・論文】「詩は“The Wound-Dresser”になるのか?—Walt Whitman と南北戦争」(『ヘンリー・ソロー研究論集』第38号・日本ソロー学会・2012年) / 「絶望からの創造的飛翔—The *Pisan Cantos* of the Ezra Pound と Walt Whitman」. *Ezra Pound Review* 第15号・2013年

**竹内 理矢** Ph.D. 教授 **研究分野** アメリカ文学・小説



【最終学歴】Kent State University 【担当授業科目】米文学演習III 【研究テーマ】アメリカ南部文学、失われた世代、近代・家族 【主な著書・論文】『深まりゆくアメリカ文学—源流と展開』(ミネルヴァ書房 共編著)2021年 / 『フォークナーと日本文学』(松柏社 共著)2019年 / 『ジェイソン・コンプトンの不安という立ち—『響きと怒り』、近代との格闘』(『フォークナー』第22号)2020年 / 『ミッドナイト・イン・パリ』論—「失われた世代」、雨と祝祭。(『文芸研究』第141号)2020年

**ワトソン, アレックス** D.Phil. 教授 **研究分野** 英国ロマン主義、ポストコロニアル理論、文学理論、英国の映画、ゴシック文学



【最終学歴】University of York 【担当授業科目】英文学演習IV 【研究テーマ】ロマン主義作品の注釈、ロマン主義のアジアでの受容、19世紀太平洋地域の英文学 【主な著書・論文】Alex Watson and Laurence Williams (eds.) *British Romanticism in Asia: The Reception, Translation, and Transformation of Romantic Literature in India and East Asia* (Singapore: Palgrave Macmillan, 2019), 564 pp. / Alex Watson, *Romantic Marginality: Empire and Nation on the Margins of the Page* (London: Routledge, 2012), 202 pp.

**久保田 俊彦** 准教授 **研究分野** 計量的な言語研究



【最終学歴】ロンドン大学・明治大学大学院 【担当授業科目】英語学演習III 【研究テーマ】コーパスをはじめとする計量的手法による言語研究 【主な著書・論文】“Lexical Richness and Semantic Loading Capacity of Nouns” in *English Corpus in Japan*(Rodopi, 2002).

**横山 晃** 博士(人文学) 講師 **研究分野** アメリカ文学・文化



【最終学歴】テキサス大学ダラス校大学院 【担当授業科目】米文学演習I 【研究テーマ】19世紀後半から20世紀前半にかけて文学作品における都市の表象について 【主な著書・論文】“‘Camping’ the Gay Nineties: Reading Mae West as a Female Impersonator in the 1930s” (*The Journal of the American Literature Society of Japan*, 2021) / “Gertrude Stein’s Dispossessed Subject: Eating, Vomiting, and Excre(a)ting in *Tender Buttons*” (*Studies in English Literature*, 2020)

**新城 真里奈** 講師 **研究分野** 英語音声学



【最終学歴】東京外国語大学 【担当授業科目】英語学演習I 【研究テーマ】英語音声学(特にウェールズ英語) 【主な著書・論文】“A Descriptive Study of Intonation in Welsh English: Preliminary Investigations of Statements and Yes/No Questions” Arashiro, Marina. 東京外国語大学大学院博士後期課程論叢『言語・地域文化研究』第20号 pp.179-192. / “An Acoustic Study on the Durational Correlates of Stress in Welsh English” Arashiro, Marina. *LEXICON* No. 43. Iwasaki Linguistic Circle. pp.54-74.

仏文学専攻

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

**小島 久和** 教授 **研究分野** ルネサンス文化



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】近代仏文学演習III 【研究テーマ】ルネサンス期の思想 【主な著書・論文】マールシリオ・フィッチーノ著『プラトン神学—靈魂の不死性について—』(『文芸研究』に翻訳掲載中)

# 文学研究科

合田 正人  
GODA Masato

教授 研究分野 19・20世紀フランス思想



【最終学歴】東京都立大学大学院／パリ第8大学大学院 【担当授業科目】現代仏文学演習Ⅰ 【研究テーマ】19・20世紀の独仏思想交渉史／近代ユダヤ思想史／境界論 【主な著書・論文】『レヴィナス』(ちくま学芸文庫・2000年)／『ジャンケレヴィッチー境界のラプソディー』(みすず書房・2003年)／『フランスを読む』(法政大学出版局・2003年)／『サルトル「むかつき」ニートという冒険』(みすず書房・2006年)

田母神 顯二郎  
TAMOGAMI Kenjiro

文学博士 教授 研究分野 フランス近・現代詩



【最終学歴】パリ第8大学大学院 【担当授業科目】現代仏文学演習Ⅱ 【研究テーマ】フランス近現代詩、精神医学、現代思想 【主な著書・論文】Le corporel et l'incorporel dans les premières œuvres d'Henri Michaux (パリ第8大学博士論文)／Fragments & Wholes(編著・L'improvisiste・2013年)／『ドゥルーズとミショー』(『ベルギーを視る』、松籟社、2016年所収)／ルネ・ジラルド『文化の起源』(翻訳、新教出版、2006年)／『ベルクソンとジャネ』(『文芸研究』2015～2019連載中)

根本 美作子  
NEMOTO Misako

学術博士 教授 研究分野 フランス文学／20世紀文学／フランス現代批評／表象文化論



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】現代仏文学演習Ⅲ 【研究テーマ】言葉とアイデンティティ、個人と近代、オートマチズムと個人、「日本」と近代 【主な著書・論文】『眠りと文学—フルースト、カフカ、谷崎は何を描いたか』(中公新書・2004年)／『オートマチズムと個人の孤独—ピエール・パシェの個人をめぐる』(『文学』岩波書店・2008年)

谷口 亜沙子  
TANIGUCHI Asako

博士(文学) 教授 研究分野 現代フランス文学



【最終学歴】パリ第7大学／早稲田大学文学学術院 【担当授業科目】現代仏文学演習Ⅳ 【研究テーマ】詩(ポエジー)／歴史と記憶／戦争の表象 【主な著書・論文】『ルネ・ドーマル根源的な体験』(水声社・2019年)／『フローベール『三つの物語』翻訳・解説(光文社新訳古典文庫・2018年)／『シャルロット・デルボ—アウシュヴィッツを「聴く」証人』(『声と文学』平凡社・2017年)／『ルネ・ドーマル『大いなる酒宴』翻訳・解説(風濤社・2013年)／『ジョゼフ・シマ 無音の光』(水声社・2011年)

奥 香織  
OKU Kaori

博士(フランス文学・文明) 准教授 研究分野 舞台芸術、劇文学、演劇美学／18世紀フランス文学・文化



【最終学歴】パリ第4大学大学院 【担当授業科目】近代仏文学演習Ⅳ 【研究テーマ】演劇を中心とした18世紀フランス文学・文化／戯曲、理論、上演の関係にみる演劇美学の変容(17-19世紀)／オペラ＝コミックの生成と変容 【主な著書・論文】『Théâtralités : tradition et innovation』(共著・Philippe Piquier・2015年)／『感覚の知を表象する場としてのマリヴォー劇—「恋の不意打ち」の構造と機能をめぐって—』(『総合社会科学研究』28号・2016年)／『キーワードで読む オペラ／音楽劇 研究ハンドブック』(共著・アルテスパブリッシング・2017年)

## 独文学専攻

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

マンデルルト, ミハエル  
MANDELARTZ Michael

Dr.phil. 教授 研究分野 文学方法論／ゲーテ研究／ロマンティク



【最終学歴】アーヘン工科大学大学院 【担当授業科目】ドイツ文芸思想史演習 【研究テーマ】ワイマール古典、ロマン主義／文学と哲学の関係、自伝、メディア論 【主な著書・論文】Goethe, Buchholz, die Nation und die Weltpolitik. Des Epimenides Erwachen (ZfDPH 139, 2020)／Goethe, Kleist. Literatur, Politik und Wissenschaft um 1800 (2011)／Literaturwissenschaft und Rechnen. Kritik der Digital Humanities (2020)

富重 与志生  
TOMISHIGE Yoshio

教授 研究分野 18世紀および現代ドイツ文学・芸術



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】近代独文学演習Ⅱ 【研究テーマ】特にカール・フィリップ・モーリッツ、レッシングそして20世紀の表現主義・ダダイズム以降の芸術・文学を研究 【主な著書・論文】『ジョルジュ・アルチュール・ゴルトシュミット「隔離の風景」(訳書・同学社)／『はじめて学ぶドイツ文学史』(共著・ミネルヴァ書房)

岡本 和子  
OKAMOTO Kazuko

博士(文学) 教授 研究分野 ドイツ近現代文学・芸術批評



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】近代独文学演習Ⅰ 【研究テーマ】ベンヤミンの芸術批評理論、近代ドイツ文学における幼年時代の記述可能性、都市ベルリンと文学 【主な著書・論文】Briefsammlung als Zeugnis des deutschen Bürgertums - Versuch einer Annäherung an Benjamins *Deutsche Menschen* - (Neue Beiträge zur Germanistik. Bd. 16/1, 2017)／『異質なものが作り出す磁場—ナポレオン軍による占領前後のベルリン文学風景』(『ベルリン—砂上のメトロポール』(竹林舎)所収・2015年)

渡辺 学  
WATANABE Manabu

教授 研究分野 日独言語文化研究、社会言語学、メディア言語学、異文化コミュニケーション



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】独語学演習 【研究テーマ】言語文化史を踏まえながら現代ドイツ語の語彙・文体等を日本語と対照しつつ調査分析 【主な著書・論文】Begegnung mit dem „Fremden“. Übersetzung als Problem der Hermeneutik und der interkulturellen Kommunikation (論文・"Brückenschläge. Linguistik an den Schnittstellen", narr/francke/attempto, 2022)／『テキスト言語学、辞書学から見た文体論の射程—「文体・スタイル」の定義を求めて—』(論文・『ENERGIE』44号・ドイツ文法理論研究会・2019年7月)／『ドイツ語の社会語用論』(共編著・ひつじ書房・2014年2月)

福岡 具子  
FUKUMA Tomoko

博士(文学) 教授 研究分野 ユダヤ系ドイツ語文学と言語哲学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】現代独文学演習Ⅰ 【研究テーマ】ユダヤ系ドイツ語文学、特に現代詩。ウィーンのユダヤ文化 【主な著書・論文】『具有される異性—パウル・ツェランの内なる詩学』(著書・2004年)／『日付と偶然—文献学的ツェラン研究超出的試み—』(論文・2007年)



**新本 史斉**  
NIIMOTO Fuminari

文学修士  
教授

研究  
分野

ドイツ語圏スイス文学、翻訳論、  
ヨーロッパ越境文学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】現代独文学演習Ⅲ  
【研究テーマ】<翻訳者=作者>による創作、ドイツ語文学における  
多言語性、翻訳比較分析 【主な著書・論文】『微笑む言葉、舞い落  
ちる散文—ローベルト・ワルザー論』(鳥影社、2020年)／『ヨーロ  
ッパ越境文学の新展開』(『思想』岩波書店、2020年)／Inszenierung  
der Ich-Fiktion auf der Bühne der japanischsprachigen  
Robert-Walser-Ausgabe. (Ortlose Mitte, Wallstein 2013) /  
Kriminalroman als Alibi oder Friedrich Glausers  
parodierendes Romanprojekt der Moderne. (Hohe und  
Niedere Literatur, Frank & Timme 2016)

## 演劇学専攻

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

**伊藤 真紀**  
ITO Maki

教授

研究  
分野

近代日本演劇



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】日本演劇演習Ⅰ  
／日本演劇特論Ⅱ 【研究テーマ】日本における近代演劇の展  
開を、同時代の社会全体との関わりから考察する。【主な著書・  
論文】『小山内薫と『靈魂の彫刻』—『象徴的演劇』としての能』  
(『文芸研究』98号)／『つかこうへいの世界—消された(知)』(共  
著・社会評論社)

**井上 優**  
INOUE Masaru

教授

研究  
分野

演劇学／西洋演劇史



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】演劇学演習Ⅰ/  
西洋演劇文学史特論Ⅲ 【研究テーマ】近代における西洋の上  
演体制の革新 【主な著書・論文】ラッセル・ジャクソン編『シェ  
イクスピア映画論』(共訳・開文社出版)／毛利三彌編『演劇論  
の変貌』(共訳・論創社)／『演劇の課題』(共著・三声社)／『演  
劇の課題2』(共著・三声社)／『シェイクスピアと日本』(編著・風  
間書房)／『獅子文六(岩田豊雄)における身体—『青春怪談』  
(1954)に見る不安定な性—』(論文『西洋比較演劇研究』17  
巻1号)

**矢内 賢二**  
YANAI Kenji

博士(文学)  
教授

研究  
分野

演劇学、日本芸能史



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】日本演劇特論  
Ⅰ、日本演劇演習Ⅱ 【研究テーマ】歌舞伎を中心とする近世・  
近代の演劇に関する歴史的研究 【主な著書・論文】『明治キ  
ャモ歌舞伎 空飛ぶ五代目菊五郎』(白水社)／『ちゃぶ台返し  
の歌舞伎入門』(新潮社)／『明治の歌舞伎と出版メディア』(ベ  
リかん社)／『明治、このフシギな時代』1・2・3(編著・新典社)ほ  
か

**大林 のり子**  
OBAYASHI Noriko

教授

研究  
分野

演劇学／近現代欧米の舞台芸術史



【最終学歴】大阪大学大学院 【担当授業科目】演劇学演習Ⅱ  
／西洋演劇文学史特論Ⅱ 【研究テーマ】20世紀前半の舞台  
芸術の展開—ドイツ語圏の演出家と協働舞台製作、その国際化  
とポピュラリティについて 【主な著書・論文】『ラインハルト劇  
団の振付とその越境性—国際パントマイム協会(1925)設立の  
背景』(『近現代演劇研究』9号・2020年)／『ラインハルトの大  
劇場演出における無言劇とオペレッタ—新たな祝祭劇への接  
点(2)』(『文芸研究』137号・2019年)／『第一次世界大戦期  
ベルリン・ドイツ劇場のレパートリー—みる民衆劇—ライムント喜  
劇『ラッペルコップ』演出』(『演劇学論叢』14号・2015年)

**伊藤 愉**  
ITO Masaru

修士  
准教授

研究  
分野

ロシア演劇史、日露文化交流史



【最終学歴】一橋大学大学院言語社会研究科 【担当授業科  
目】西洋演劇文学史特論ⅠA・ⅠB、演劇学演習ⅢA～ⅢD 【研究  
テーマ】ロシア/ソヴィエト・モダニズム演劇における演劇と社  
会 【主な著書・論文】永田靖他編『歌舞伎と革命ロシア—  
市川左團次一座の1928年ソ連公演と日露演劇交流』(共著、  
2017)、菅孝行編『佐野碩 人と仕事：1905-1966』(共著、  
2015)、グリゴリー・ガウスネル『見知らぬ日本』(翻訳、  
2023)、K. B. イートン『メイエルホリドとプレヒトの演劇』(共  
編訳、2016)、E. ブロン『メイエルホリド 演劇の革命』(共訳、  
2008)ほか

## 文芸メディア専攻

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

**内村 和至**  
UCHIMURA Katsushi

教授

研究  
分野

日本近世文学・思想/  
明治初期戯作文学



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】文芸メディア演  
習Ⅱ／日本文芸史特論／文芸メディア特論Ⅱ 【研究テーマ】  
上田秋成研究・禅思想研究・国学思想研究・戯作文芸研究  
【主な著書・論文】『異形の念仏行者』(青土社・2016年)／『萩  
原乙彦研究序説』(『文芸研究』112号・2010年)／『上田秋成  
論』(ベリかん社・2007年)

**中江 桂子**  
NAKAE Keiko

博士(社会学)  
教授

研究  
分野

文化社会学 メディア文化論  
生活文化論 身体と社会



【最終学歴】法政大学大学院 【担当授業科目】文芸メディア演  
習Ⅳ／表象文化特論 【研究テーマ】文芸とコミュニケーション  
の社会史的研究。生活文化と社会心理の重層的なかかわり  
についての社会史的研究。身体とメディアに関する社会学 【主  
な著書・論文】『不協和音の宇宙へ—モンテスキューの社会学』  
(単著・新曜社・2017年)／『昭和文化的ダイナミクス』(編著・  
ミネルヴァ書房・2016年)／『ダイナミズムとしてのジェンダー』  
(共編著・風間書房・2016年)／『メディアと文化の日韓関係』  
(共編著・新曜社・2016年)

**伊藤 氏貴**  
ITO Ujataka

博士(芸術学)  
教授

研究  
分野

現代における文藝思潮



【最終学歴】日本大学大学院 【担当授業科目】文芸メディア演  
習Ⅵ／文芸メディア特論Ⅵ 【研究テーマ】『文学の終焉』と『藝  
術の終焉』との関係、またさらにそこへの『自我の終焉』のなか  
かわり 【主な著書・論文】『告白の文学』(鳥影社)／『同性愛文  
学の系譜』(勉誠出版)／『美の日本』(明治大学出版会)／『樋口  
一葉赤貧日記』(中央公論新社)

**能地 克宜**  
NOJI Katsunori

博士(学術)  
准教授

研究  
分野

日本近現代文学、室生犀星、  
浅草文芸



【最終学歴】早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程  
【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅲ、文芸メディア特論Ⅲ 【研  
究テーマ】室生犀星研究、浅草文芸研究、街と文学の研究、言  
葉と想像力の関係の研究 【主な著書・論文】『浅草文芸ハンド  
ブック』(共著)(勉誠出版、2016年5月)／『犀星という仮構』(単  
著)(森話社、2016年1月)／『研究ノート タウン誌 月刊『浅草』  
と浅草文芸』(『歌子』第27号、2019年3月)／『(案内記)から  
消えゆくもの—昭和二〇年代の浅草と復興』(『昭和文学研究』  
第75集、2017年10月)

# 文学研究科

相良 剛

SAGARA Go

講師

研究分野 出版論



【最終学歴】ロンドン大学大学院 【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅴ/文芸メディア特論Ⅴ 【研究テーマ】電子分野を含む出版メディアの分析 【主な著書・論文】『メディアは第三世界の民主化とどうかかわるのか—東南アジアの新聞から読みとれる問題』(羽場・増田編『21世紀国際社会への招待』有斐閣・2003年)/『文芸メディアとしての新聞「読書面」研究序説』(『文芸と言語メディア』蒼丘書林・2005年)/『大切なことを目に見せる—『星の王子さま』という企画をよむ』(『文芸研究』123号)

佐伯 和香子

SAEKI Wakako

博士(文学) 講師

研究分野 日本古典文学・口承文芸



【最終学歴】國學院大学大学院 【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅰ、伝承文学特論Ⅰ 【研究テーマ】日本古典文学の民俗学的研究 【主な著書・論文】『菅江真澄の旅と和歌伝承』(単著・岩田書院・2009年)/『鬼の持ち物—お伽草子「一寸法師」を入り口として—』(『昔話伝説研究』41号・2022年3月)/『昔話「隣の寝太郎」と餅』(『國學院雑誌』第118巻4号・2017年4月)/『お伽草子「一寸法師」を読む』(『文芸研究』第123号・2014年3月)

## 史学専攻(日本史学専修)

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

山田 朗

YAMADA Akira

博士(史学) 教授

研究分野 日本現代の政治史/天皇制研究/歴史教育論



【最終学歴】東京都立大学大学院 【担当授業科目】日本史学研究(演習)/日本史学研究(講義) 【研究テーマ】15年戦争期から戦後占領期を中心とする国家と軍事の関係、天皇制の役割、植民地支配に関する研究 【主な著書・論文】『軍備拡張の近代史』(吉川弘文館・1997年)/『世界史の中の日露戦争』(吉川弘文館・2009年)/『日本は過去とどう向き合ってきたか』(高文研・2013年)/『近代日本軍勢力の研究』(校倉書房・2015年)/『兵士たちの戦場』(岩波書店・2015年)/『昭和天皇の戦争』(岩波書店・2017年)

落合 弘樹

OCHIAI Hiroki

博士(文学) 教授

研究分野 日本近代史(明治維新史)



【最終学歴】中央大学大学院文学研究科 【担当授業科目】日本史学研究(演習)/日本史学研究(講義) 【研究テーマ】幕末維新期における国家の担い手の変動を、旧藩士族の存在を基軸に研究をすすめている。 【主な著書・論文】『明治国家と士族』(単著・吉川弘文館・2001年)/『西郷隆盛と士族』(単著・吉川弘文館・2005年)/『西南戦争と西郷隆盛』(単著・吉川弘文館・2013年)/『秩禄処分—明治維新と武家の解体—』(単著・講談社学術文庫・2015年)

高橋 一樹

TAKAHASHI Kazuki

博士(文学) 教授

研究分野 日本中世史・史料学



【最終学歴】大阪市立大学大学院 【担当授業科目】日本史学研究(講義)・日本史学研究(演習) 【研究テーマ】中世荘園制の展開過程について、都市・農村間の交通体系や文書論の視点から研究 【主な著書・論文】『中世荘園制と鎌倉幕府』(塙書房・2004年)/『東国武士団と鎌倉幕府』(吉川弘文館・2013年)/『岩波講座日本歴史』第21巻史料論(共著・岩波書店・2015年)/『十四世紀の歴史学』(共著・高志書院・2016年)/『中世地下文書の世界』(共著・勉誠出版・2017年)/『戦国期文書論』(共著・高志書院・2019年)ほか

松山 恵

MATSUYAMA Megumi

博士(工学) 教授

研究分野 日本近代史(都市史、文化史)



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】日本史学研究(演習)/日本史学研究(講義) 【研究テーマ】日本近代都市史。おもに幕末から明治期にかけての日本都市の特質について、空間・社会・文化の諸相から総合的に考察 【主な著書・論文】『都市空間の明治維新 江戸から東京への大転換』(単著・筑摩書房・2019年)/『江戸・東京の都市史』(単著・東京大学出版会・2014年)/『伝統都市Ⅰ イデア』(共著・東京大学出版会・2010年)/『明治初年東京における「諸神社遷拜所」の族生について』(『駿台史学』142号、pp.1-24・2011年)ほか。

野尻 泰弘

NOJIRI Yasuhiro

博士(史学) 教授

研究分野 日本近世史(村落史、地域史、藩研究)



【最終学歴】学習院大学大学院 【担当授業科目】日本史学研究(演習)/日本史学研究(講義) 【研究テーマ】近世日本の支配・被支配の関係について藩領域を中心に研究 【主な著書・論文】『史料集 佐倉藩幕末分限帳』(共編著・2019年)/『近世初期における境目争論と「天平元年」の古文書』(『駿台史学』158・2016年)/『近世日本の支配構造と藩地域』(単著・吉川弘文館・2014年)/『藩地域の農政と学問・金融』(共著・岩田書院・2014年)/『近世地域史研究の潮流』(『歴史評論』731・2011年)/『畿内の村の近世史』(共著・清文堂出版・2010年)

中村 友一

NAKAMURA Tomokazu

博士(史学) 准教授

研究分野 日本古代史(政治史・法制史・地域史)



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】日本史学研究(演習)/日本史学研究(講義) 【研究テーマ】日本古代の慣習法・律令法の形成・展開と政治史・地域史の総合的研究 【主な著書・論文】『日本古代の氏姓制』(単著・八木書店・2009年)/『日本古代の地域と交流』(共著・臨川書店・2016年)/『日本古代の王権と地方』(共著・大和書房・2015年)/『国家成立期の氏族・部と系譜』(単著・『歴史評論』809号・2017年)

清水 有子

SHIMIZU Yuko

博士(史学) 准教授

研究分野 近世日本史(政治・外交・キリシタン)



【最終学歴】東京都立大学大学院 【担当授業科目】日本史学研究(演習)/日本史学研究(講義) 【研究テーマ】織豊政権の南蛮交渉、「鎖国」の形成、キリシタン史の研究 【主な著書・論文】『近世日本とルソン—「鎖国」形成史再考』(単著・東京堂出版・2012年)/『キリシタン歴史探求の現在と未来』(共著・教文館・2021年)/『徳川家康のメキシコ貿易交渉と「鎖国」』(『岩波講座 世界歴史14 南北アメリカ大陸：〜17世紀』、2022年)/『近世日本の形成と南蛮・キリシタン』(『日本史研究』726・2023年)ほか

富山 仁貴

TOMIYAMA Noritaka

博士(歴史学) 専任講師

研究分野 日本現代史(社会史、地域史、教育史)



【最終学歴】関西学院大学大学院 【担当授業科目】日本史学研究(演習)、日本史学研究(講義) 【研究テーマ】20世紀日本における社会運動・学校教育の社会史 【主な著書・論文】『戦後日本における教員社会の展開と地域社会運動』(『ヒストリア』第289号・2021年)/『いま、戦後日本における地域社会運動の歴史を研究すること』(『新しい歴史学のために』第293号・2018年)/『1960年代日本の歴史学における「科学者の社会的責任」』(『歴史科学』第227号・2017年)/『高度成長前半期における地域社会運動と教育』(『部落問題研究』第205輯・2016年)ほか

## 史学専攻(アジア史専修)

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

高田 幸男  
TAKADA Yukio

教授

研究分野 中国近現代史  
—特に教育史・江南地域社会史—

【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】アジア史研究(演習)/アジア史研究(講義) 【研究テーマ】20世紀中国における政治・社会・教育文化の変容—江南地域社会を中心に—/近代東アジア教育交流史 【主な著書・論文】『現代中国の歴史第2版』(共著・東京大学出版会)/『戦前期アジア留学生と明治大学』(編著・東方書店・2019年)/『中華民国教育部(1912年-1949年)の人員構成』(『駿台史学』148号・2013年)/『シリーズ20世紀中国史2』(共著・東京大学出版会・2009年)

江川 ひかり  
EGAWA Hikari

教授

研究分野 トルコ近代史



【最終学歴】お茶の水女子大学大学院 【担当授業科目】アジア史研究(演習)、アジア史研究(講義) 【研究テーマ】オスマン帝国社会経済史。具体的なテーマは、土地問題、人口・家族史、遊牧民を含めた地方社会の変容、演劇史 【主な著書・論文】『世紀末イスタンブールの演劇空間—都市社会史の視点から—』(永田雄三と共著・白帝社・2015年)/『オスマン帝国における遊牧民の定住化過程:ヤージュ・ベディル遊牧民グループの事例を中心に』(単著『史潮』90、歴史学会、2021年)

高村 武幸  
TAKAMURA Takeyuki博士(文学)  
教授

研究分野 中国古代史(秦漢史)



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】アジア史研究(演習)/アジア史研究(講義) 【研究テーマ】秦漢時代の文献・簡牘史料を用いた制度・社会の研究 【主な著書・論文】『漢代の地方官吏と地域社会』(汲古書院・2008年)/『秦漢簡牘史料研究』(汲古書院・2015年)/『周縁領域からみた秦漢帝国』(編著・六一書房・2017年)/『肩水金閼を往来した人々と前漢後半期の辺郡・内郡』(『東洋学報』99・3・2017年)

櫻井 智美  
SAKURAI Satomi博士(文学)  
教授研究分野 中国近世史(宋元史)/  
モンゴル帝国史

【最終学歴】京都大学大学院 【担当授業科目】アジア史研究(演習)/アジア史研究(講義) 【研究テーマ】11~15世紀中国の政治制度・文化について考察し、東~内陸アジアの変容を跡づける 【主な著書・論文】『元朝の歴史—モンゴル帝国期の東ユーラシア』(共編著・勉誠出版・2021年)/『事林広記』に見る江南知識人の正統意識—「地輿類」の分析を中心に(『駿台史学』178・2023年)/元代江南土人にとっての「中国」—「混—南北」の意味から考える(『東洋史研究』78・1・2019年)

鈴木 開  
SUZUKI Kai博士(文学)  
准教授

研究分野 朝鮮史・中国明清史



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】アジア史研究(演習)/アジア史研究(講義) 【研究テーマ】朝鮮燕行使を中心とした朝鮮王朝の外交体制 【主な著書・論文】『明清交替と朝鮮外交』(刀水書房・2021年)/『伝石之珩撰『南漢日記』と李道長撰『承政院日記』—丙子の乱関係史料の基礎的検討』(『東洋史研究』79・2・2020年)

## 史学専攻(西洋史学専修)

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

豊川 浩一  
TOYOKAWA Koichi博士(文学)  
教授

研究分野 ロシア近代の国家・社会・民族問題



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】西洋史学研究(演習)/西洋史学研究(講義) 【研究テーマ】ロシア近代史。とくに近代の民衆運動と諸民族の動向に焦点をあてて、それらと政治構造や社会制度との関係を考える。【主な著書・論文】『オレンブルグとオレンブルグское казачество во время восстания Пугачева 1773-1774 гг. М., 1996.』/『ロシア帝国民族統合史の研究』(北海道大学出版会・2006年)/『18世紀ロシアの探検と変容する空間認識—キリーロフのオレンブルク遠征とヤーロフ事件—』(山川出版社・2016年)

水野 博子  
MIZUNO HirokoDr.Phil.  
教授

研究分野 西洋近現代史



【最終学歴】オーストリア・グラーツ大学 【担当授業科目】西洋史学研究(演習)/西洋史学研究(講義) 【研究テーマ】『オーストリア国民』形成の歴史と文化、消防団の社会史、記憶文化史、境界領域研究 【主な著書・論文】(単著)『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム—戦争とナチズムの記憶をめぐって—』(ミネルヴァ書房、2020年)/『共編著』大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門—歴史のラビンスへの招待—』(昭和堂・2013年)など

青谷 秀紀  
AOTANI Hideki博士(文学)  
教授

研究分野 西洋中世史



【最終学歴】京都大学大学院 【担当授業科目】西洋史学研究(演習)/西洋史学研究(講義) 【研究テーマ】中世ヨーロッパの歴史叙述と歴史意識/中世ネーデルラント都市の宗教社会史 【主な著書・論文】朝治啓三他編『中世英仏関係史 1066-1500:ノルマン征服から百年戦争終結まで』(共著・創元社・2012年)/『記憶のなかのベルギー—中世—歴史叙述にみる領邦アイデンティティの生成—』(単著・京都大学学術出版会・2011年)/『論文』「プロセッションと市民的信仰の世界」(『西洋中世研究』2・2010年)

古山 夕城  
FURUYAMA Yugi

准教授

研究分野 西洋古代史/ギリシア古代史



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】西洋史学研究(演習)/西洋史学研究(講義) 【研究テーマ】ギリシア世界における周縁地域の政治社会構造と異文化交渉/ギリシア古代における葬祭礼と国家 【主な著書・論文】『クレタにおける文字表象とポリスの法—法碑文の数量分析からの考察—』(『明大人文研紀要』第83冊・2018年)/『アルカイック期クレタにおける法碑文のコスモロジー形式・形態分析と現象論—』(『駿台史学』第147号・2013年)

鰐淵 秀一  
WANIBUCHI ShuichiMA  
准教授研究分野 初期アメリカ史・大西洋史  
(特に植民地時代から革命期)

【最終学歴】東京大学大学院、ハーヴァード大学大学院 【担当授業科目】西洋史学研究IV(演習)、西洋史学研究IV(講義) 【研究テーマ】北米植民地における社会文化史および環境史、アメリカ革命における公論と暴力 【主な著書・論文】遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2022年(共著)/梅崎透ほか編『よくわかるアメリカの歴史』ミネルヴァ書房、2021年(共著)/Andrew R. Murphy and John Smolenski, eds., 『The Worlds of William Penn (New Brunswick: Rutgers University Press, 2019)』(共著)



# 文学研究科

## 史学専攻(考古学専修)

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

石川 日出志  
ISHIKAWA Hideshi

教授

研究分野 日本考古学 日本考古学史  
弥生時代 中国古代理印



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】考古学研究(演習)/考古学研究(講義) 【研究テーマ】縄文時代から弥生時代への社会変化/弥生時代の多様な地域性と周辺世界との関わり の 解明 / 中国古代理印 【主な著書・論文】『秦漢魏晋代印・蛇鈕の型式学』『古代学研究所紀要』31(明治大学日本古代学研究所・2022年) / 『農耕社会の成立』(岩波新書・2010年) / 『弥生時代の発見—弥生町遺跡』(新泉社・2008年) / 『考古資料大観1 弥生・古墳時代土器1』(共編著・小学館・2003年)

阿部 芳郎  
ABE Yoshio

博士(史学)  
教授

研究分野 先史考古学・縄文時代・  
生業論・資源利用学・型式学



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】考古学研究(演習)/考古学研究(講義)/総合史学研究VI 【研究テーマ】学際的研究を通じて生業や社会構造から縄文文化の特質を描き出す 【主な著書・論文】『ハマ貝塚と縄文社会』(雄山閣・2014年) / 『土偶と縄文社会』(雄山閣・2012年) / 『「藻塩焼く」の考古学』(『考古学研究』第63巻第1号) / 『縄文時代における製塩行為の復元』(『駿台史学』第149号・2014年) / 『人類史と時間情報』(雄山閣) / 『考古学の挑戦』(岩波書店・2010年) / 『失われた史前学』(岩波書店・2004年)

佐々木 憲一  
SASAKI Ken'ichi

Ph.D.  
教授

研究分野 国家形成期の考古学(古墳時代)



【最終学歴】ハーヴァード大学大学院 【担当授業科目】考古学研究(演習)/考古学研究(講義)/総合史学研究II 【研究テーマ】在地社会の主体性・自立性を重視し、周縁地域が国家に向けて進化していく過程を追求する。【主な著書・論文】『茨城県石岡市佐塚古墳の研究』(共編著・明治大学考古学研究室・2021年) / 『常陸の古墳群』(正編2010, 続編2020, 共編著) / 『日本の古墳はなぜ巨大なのか』(共編著・吉川弘文館・2020年) / 『震ヶ浦の前方後円墳』(編著・六一書房・2018年) / 『Early Korea Japan Interactions』(共編著・ハーヴァード大学・2018年)

藤山 龍造  
FUJIYAMA Ryuzo

博士(史学)  
教授

研究分野 先史考古学/考古学の方法論



【最終学歴】慶應義塾大学大学院 【担当授業科目】考古学研究(演習)/考古学研究(講義)/総合史学研究VI 【研究テーマ】先史時代の自然環境と資源開発/考古学の方法論/考古学的方法の領域横断的な可能性 【主な著書・論文】『縄文時代の考古学』(共著・同成社・2007年) / 『環境変化と縄文社会の幕開け』(単著・雄山閣・2009年) / 『移動と流通の縄文社会史』(共著・雄山閣・2010年)

若狭 徹  
WAKASA Toru

博士(史学)  
教授

研究分野 日本考古学・古墳時代・社会構造論・  
遺跡の保存活用



【最終学歴】明治大学 【担当授業科目】考古学研究(講義)/考古学研究(演習) 【研究テーマ】古墳時代首長の地域経営政策を研究し、なぜ巨大古墳が造られたのかを解明する 【主な著書・論文】『埴輪は語る』(単著・ちくま新書・2021年) / 『古墳時代東国の地域経営』(単著・吉川弘文館・2021年) / 『前方後円墳と東国社会』(単著・吉川弘文館・2017年) / 『東国から読み解く古墳時代』(単著・吉川弘文館・2015年) / 『古墳時代ガイドブック』(単著・新泉社・2013年) / 『もっと知りたいはにわの世界』(単著・東京美術・2009年)

## 地理学専攻

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

川口 太郎  
KAWAGUCHI Taro

博士(理学)  
教授

研究分野 都市地理学/社会地理学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】人文地理学演習I/地理学合同演習 【研究テーマ】都市における空間資源の利活用。人口減少時代の大都市社会空間の変容。ワークライフスタイルと住まいの選択 【主な著書・論文】『日本の人口移動—ライフコースと地域性』(共編著・古今書院・2002年) / 『新版 都市社会地理学』(共訳・古今書院・2005年・2013年) / 『よくわかる都市地理学』(分担・ミネルヴァ書房・2014年) / 『変わりゆく日本の大都市圏』(分担・ナカニシヤ出版・2015年)

梅本 亨  
UMEMOTO Tohru

理学博士  
教授

研究分野 気候学・自然地理学



【最終学歴】東京都立大学大学院 【担当授業科目】自然地理学演習I/地理学合同演習 【研究テーマ】日本列島の山地の気候と植生を中心とした自然景観の研究。スカンジナビアの気候と植生を主体とする北極圏の自然地理学 【主な著書・論文】『日本の気候景観—風と樹 風と集落—』(共編著・古今書院・2000年) / 『景観の分析と保護のための地生態学入門』(分担執筆・古今書院・2002年) / 『世界地理講座9中央・北ヨーロッパ』(分担・朝倉書店・2014年) / 『図説世界の機構事典』(分担・朝倉書店・2022年) / 『風よけの気候景観』(共著・古今書院・2023)

大城 直樹  
OSHIRO Naoki

博士(文学)  
教授

研究分野 文化地理学/地理思想史



【最終学歴】大阪市立大学大学院 【担当授業科目】人文地理学演習II/地理学合同演習 【研究テーマ】地域文化の生産・流通・消費。近現代における都市と身体の関係性の変容 【主な著書・論文】『惑星都市理論』(共著・以文社・2021年) / 『人文地理学への招待』(共著・ミネルヴァ書房・2015年) / 『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間』(共著・ナカニシヤ出版・2008年) / 『郷土・表象と実践』(共編著・嵯峨野書院・2003年) / 『空間から場所へ：地理的想像力の探求』(共編著・古今書院・1998年)

中澤 高志  
NAKAZAWA Takashi

博士(学術)  
教授

研究分野 経済地理学/都市地理学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】人文地理学演習III/地理学合同演習 【研究テーマ】日本における「労働の地理学」の実証的展開/世代交代に伴う大都市圏の構造変容 【主な著書・論文】『職業キャリアの空間的軌跡—研究開発技術者と情報技術者のライフコース』(大学教育出版・2008年) / 『労働の経済地理学』(日本経済評論社・2014年) / 『住まいと仕事の地理学』(旬報社・2019年) / 『経済地理学とは何か』(旬報社・2021年)

荒又 美陽  
ARAMATA Miyo

博士(社会学)  
教授

研究分野 人文地理学/フランス社会論



【最終学歴】一橋大学大学院 【担当授業科目】地誌学演習I/地理学合同演習 【研究テーマ】近現代フランスにおける都市計画事業の思想的背景に関する研究 【主な著書・論文】『私はどうして地理学者になったのか—フランス地理学者からのメッセージ』(共訳・学文社・2017年) / 『パリ神話と都市景観—マレ保全区における浄化と排除の論理』(明石書店・2011年) / 『Political Economy of the Tokyo Olympics』(Routledge, 2023) / 『東京の批判地誌学』(ナカニシヤ出版・2022年)

**山本 大策**  
YAMAMOTO Daisaku

Ph.D. 教授

研究分野 **人文地理学(経済地理学、生活環境論)**

【最終学歴】ミネソタ大学大学院 【担当授業科目】地誌学演習、大学院合同演習 【研究テーマ】生活環境や経済機会の変化と地域的対応に関する研究 【主な著書・論文】Everyday Life-Environmentalism (共編著・Routledge・2023年) / Rebuilding Fukushima (共編著・Routledge・2017年) / Unravelling the Fukushima Disaster (共編著・Routledge・2016年) / Nuclear-to-Nature Land Conversion (論文・Geographical Review・2020年)




**佐々木 夏来**  
SASAKI Natsuki

博士(環境学) 講師

研究分野 **自然地理学/地形学**

【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】自然地理学演習II/地理学合同演習 【研究テーマ】山岳湿地の形成と発達に関する地形学的研究 【主な著書・論文】Mountain wetland distributions controlled by landforms and snow depth at quaternary volcanoes in NE Japan: assessing the vulnerability of wetlands to reduced snowfall (2022, Wetlands 42, 124) / 船形山の大规模地すべり地における地形発達と湿地の形成 (2018, 地形 39, 67-82)



## 臨床人間学専攻(臨床心理学専修)


※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

**高瀬 由嗣**  
TAKASE Yuji

博士(心理学) 教授

研究分野 **臨床心理学/心理査定**

【最終学歴】中京大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/臨床心理実習/臨床心理査定演習 【研究テーマ】心理テストの科学的基盤の検討 【主な著書・論文】『心理アセスメントの理論と実践』(共著・筆頭・岩崎学術出版社・2020年)『臨床心理学の実践』/『可視性の概念に基づくロールシャッハ人間運動反応の内容分析の意味』(単著・『包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌』20巻、49-61・2016年) / 『心理テストを用いたアセスメントにおけるサイエンスとアート』(単著・『明治大学心理社会学研究』14巻、29-42・2019年)




**加藤 尚子**  
KATO Shoko

博士(コミュニケーション福祉学) 教授

研究分野 **臨床心理学/コミュニティ心理学**

【最終学歴】立教大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/臨床心理実習/コミュニティアプローチ特論 【研究テーマ】心理コンサルテーション/アタッチメント・トラウマの心理療法/虐待を受けた子どもの養育支援 【主な著書・論文】『虐待から子どもを守る』/『施設心理士という仕事〜児童養護施設と児童虐待への心理的アプローチ〜』/『児童養護施設における心理コンサルテーションの機能に関する研究』(心理臨床学研究第31巻第4号) / 対人援助のためのグループワーク①〜③




**竹松 志乃**  
TAKEMATSU Shino

准教授

研究分野 **臨床心理学/心理療法**

【最終学歴】上智大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/臨床心理面接特論/臨床心理実習 【研究テーマ】イメージを媒介とする心理療法の研究・実践/デス・エデュケーションに関する臨床心理学的研究・実践 【主な著書・論文】『はじめての臨床心理学』(共編・北樹出版) / 『チック・強迫症状を呈した中学生男子の事例』(心理臨床学研究12巻2号) / 『日本の学校教育におけるデス・エデュケーション』(明大人文紀要48冊)ほか




**岡安 孝弘**  
OKAYASU Takahiro

博士(心理学) 教授

研究分野 **教育臨床心理学/健康心理学/認知行動療法**

【最終学歴】上智大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/健康心理学特論/臨床心理基礎実習 【研究テーマ】思春期・青年期における精神的健康に関する研究 【主な著書・論文】『学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』(共著・北大路書房) / 『健康心理アセスメント概論』(共著・実務教育出版) / 『健康心理学』(共著・培風館) / 『生徒指導と学校カウンセリング』(共著・ナカニシヤ出版)ほか



**佐々木 享子**  
SASAKI Shoko

博士(教育学) 准教授

研究分野 **臨床心理学/性科学/性心理発達**

【最終学歴】慶應義塾大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/臨床心理学特論B/臨床心理基礎実習 【研究テーマ】多様な性に対する臨床心理学的支援 【主な著書・論文】トランスジェンダーの心理学 - 多様な性同一性の発達メカニズムと形成 - (単著・晃洋書房・2017年) / Genetic and Environmental influences on Traits of Gender identity disorder: A Study of Japanese Twins across Developmental Stages. Archives of Sexual Behavior, 45, 1681-1695. (筆頭著者・2016年) / 中学校における「性の多様性」授業の教育効果(単著・『教育心理学研究』66(4)pp.313-326・2018年)




**諸富 祥彦**  
MOROTOMI Yoshiniko

博士(教育学) 教授

研究分野 **人間性心理学 自己成長の心理学 学校臨床心理学**

【最終学歴】筑波大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/臨床心理基礎実習/臨床心理面接特論/学校臨床心理学特論 【研究テーマ】実存的心理療法 人間性心理学フォーカシング 学校心理臨床 不登校 いじめ スクールカウンセラーの実践活動 【主な著書・論文】『自己成長の心理学』(コスモスライブラリー) / 『教師の悩みとメンタルヘルス』(図書文化) / 『学校現場で使えるカウンセリングテクニック』(誠信書房)ほか




**濱田 祥子**  
HAMADA Shoko

博士(心理学) 准教授

研究分野 **児童期、思春期の臨床心理学**

【最終学歴】名古屋大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/臨床心理学特論/臨床心理実習 【研究テーマ】児童期、思春期の心理的問題、行動上の問題についての研究 【主な著書・論文】『高校生の自傷行為の特徴—行為ごとの経験率と自傷行為前後の感情に着目して—』2009年、『児童青年精神医学とその近接領域』第50巻5号, pp 504-515. / "Association between bullying behavior, perceived school safety, and self-cutting: A Japanese population-based school survey." 2018年 Child and Adolescent Mental Health, 23(3) pp.141-147.




**伊藤 直樹**  
ITO Naoki

博士(人間学) 教授

研究分野 **学生相談・教育相談・特別支援教育**

【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】思春期・青年期論/臨床人間学総合演習/心理学研究方法特論/臨床心理実習 【研究テーマ】思春期・青年期における学校での適応の改善に関する研究 【主な著書・論文】『学生相談活動の発展に寄与する要因についての研究』(著書・風間書房・2018年) / 『教育臨床論』(編著・批評社・2009年) / 『教師をめざす人のための青年心理学』(編著・学陽書房・2006年) / 『スクールカウンセリングの基礎知識』(分担執筆・新書館・2002年)




**川島 義高**  
KAWASHIMA Yoshitaka

博士(医学) 准教授

研究分野 **臨床心理学、医療心理学**

【最終学歴】日本医科大学大学院医学研究科 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/臨床心理実習 【研究テーマ】自傷・自殺予防、精神疾患に対する心理社会的介入、専門職連携・協働 【主な著書・論文】『救急医療から地域へつなげる自殺未遂者支援のエッセンスHOPEガイドブック - チーム医療で強力な自殺再企図予防を実現する -』(共著・へるす出版・2018年) / 『医療領域での他職種協働: 心理職に必要とされるスキルとその評価に関する系統的レビュー』(筆頭著者・『臨床心理学』19(2), p221-232・2019年) / 『Interventions to prevent suicidal behavior and ideation for patients with cancer: A systematic review』(筆頭著者・『Gen Hosp Psychiatry』60, p98-110・2019年)





# 文学研究科

## 臨床人間学専攻（現代社会学専修）

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

大畑 裕嗣  
OHATA Hiroshi

教授

研究分野 社会運動論／市民社会論



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／現代社会学総合演習／現代社会学演習Ⅱ 【研究テーマ】市民社会における出来事の連鎖としての社会運動 【主な著書・論文】『誰が何を「厚く」記述するのか——ライルとギアーツの「厚い記述」』『現代社会学理論研究』第15号(2021年)／『現代韓国の市民社会論と社会運動』(単著・成文堂・2011年)／『ヨーロッパと韓国の市民社会論——脱冷戦期の「国家に抗する市民社会」をめぐる論議を振り返る』『明治大学人文科学研究所紀要』第90冊(2023年)

内藤 朝雄  
NAITO Asao

准教授

研究分野 社会学／臨床社会学／心理社会学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床社会学演習Ⅳ／臨床社会学実習Ⅰ・Ⅱ 【研究テーマ】学校や職場や地域などのいじめ／民族・宗教紛争／自由な社会の構想／心理-社会的な秩序の生態学モデル／進歩理論の応用 【主な著書・論文】単著『いじめの社会学』(柏書房)／『いじめの構造—なぜ人が怪物になるのか』(講談社)／『いじめの時代』(柏書房)／共著『「ニート」って言うな!』(光文社)／『いじめの直し方』(朝日新聞出版)／「学校の秩序分析から社会の原理論へ」『岩波講座 現代第8巻 学習する社会の明日』(岩波書店)

平山 満紀  
HIRAYAMA Maki

准教授

研究分野 セクシュアリティの社会学／身体と身体文化の社会学



【最終学歴】東京大学大学院博士課程単位取得退学 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床社会学演習Ⅴ／臨床社会学実習Ⅰ・Ⅱ 【研究テーマ】日本におけるセクシュアリティの近現代史、セクシュアリティの国際比較研究、健康と病 【主な著書・論文】『Developments in Information Technology and the Sexual Depression of Japanese Youth since 2000』(International Journal of the Sociology of Leisure, March 2019, Volume 2) / Sex as Leisure for the Japanese Women, Positive Sociology of Leisure, Shintaro Kono, et al.eds., Palgrave, 2020 June,

昔農 英明  
SEKINOU Hideaki

博士(社会学)  
准教授

研究分野 国際社会学、多文化共生論



【最終学歴】慶應義塾大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床社会学演習Ⅰ／臨床社会学実習Ⅰ・Ⅱ 【研究テーマ】移民・難民保護の比較社会学的研究 【主な著書・論文】『「移民国家ドイツ」の難民庇護政策』(単著・慶應義塾大学出版会・2014年)／「移民受入の国際社会学」(共著・名古屋大学出版会・2017年)

宇田 和子  
UDA Kazuko

博士  
(政策科学)  
准教授

研究分野 環境社会学／保健医療社会学



【最終学歴】法政大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床社会学演習Ⅲ／臨床社会学実習Ⅰ・Ⅱ 【研究テーマ】環境被害と生活回復、公害・薬害・食品公害の補償政策の比較 【主な著書・論文】『「カネミ油症事件における「補償制度」の特異性と欠陥』(『社会学評論』63(1)、2012年)／『食品公害と被害者救済』(単著・東信堂・2015年)／『環境社会学講座』第一巻(共著・新泉社・2023年)／『薬害とはなにか』(共著・ミネルヴァ書房・2023年)／Environmental Pollution and Community Rebuilding in Modern Japan(共著・Springer・2023年)

## 臨床人間学専攻（教育学専修）

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

小林 繁  
KOBAYASHI Shigeru

教授

研究分野 社会教育学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床教育学演習Ⅴ／生涯学習特論／臨床社会学実習Ⅰ・Ⅱ 【研究テーマ】生涯学習をめぐる諸問題の検討／障がいをもつ人の学習権保障の課題 【主な著書・論文】『学びのオルタナティブ』(編著・れんが書房新社)／『学びのトボス』(クレイン)／『現代社会教育』(クレイン)／『障害をもつ人の学習権保障とノーマライゼーションの課題』(れんが書房新社)／『地域福祉と生涯学習』(編著・現代書館)ほか

高野 和子  
TAKANO Kazuko

教授

研究分野 教師教育／教育行政学



【最終学歴】京大大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床教育学演習Ⅲ／教師教育論 【研究テーマ】日英の教師教育についての比較制度的研究 【主な著書・論文】『教職原論』(編著・学文社・2019年)／『イギリスにおける教員養成の「質保証」システム—戦後改革からの40年間—』『明治大学人文科学研究所紀要』第77冊(2015年)／『教育改革の社会学 市場・公教育・シティズンシップ』(G. Whitty 著・共訳・東京大学出版会・2004年)ほか

齋藤 泰則  
SAITO Yasunori

教授

研究分野 図書館情報学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】図書館情報学演習・図書館情報学特論・情報サービス特論 【研究テーマ】レファレンスサービスの理論 【主な著書・論文】『学習指導と学校図書館』(編著・樹村房・2016年)／『論考図書館とレファレンスサービス』(単著・樹村房・2017年)／『レファレンスサービスの射程と展開』(編著・日本図書館協会・2020)

平川 景子  
HIRAKAWA Keiko

教授

研究分野 社会教育



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床教育学演習Ⅰ／社会教育実践論 【研究テーマ】女性の主体形成。労働者の主体形成。社会教育実践分析。学習支援者の力量形成。 【主な著書・論文】『看護職の専門性とアイデンティティの形成過程—戊辰戦争から「看護婦規則」成立前後まで—』(岡山禮子他著『近代日本の専門職とジェンダー』風間書房2019年)『社会教育士養成の展望と課題』(日本社会教育学会編『社会教育職員養成と研修の新たな展望』東洋館出版社2018年)

青柳 英治  
AOYAGI Eiji

博士  
(図書館情報学)  
教授

研究分野 図書館情報学




【最終学歴】筑波大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／教育学総合演習A・B／図書館情報学演習Ⅰ／図書館経営特論／専門図書館特論 【研究テーマ】図書館専門職員の人的資源管理／専門図書館のサービス活動と管理運営 【主な著書・論文】『市民とつくる図書館：参加と協働の視点から』(編著・勉誠出版・2021年)／『専門図書館の役割とこと』(共編著・勁草書房・2017年)／『ささあう図書館：「社会装置」としての新たなモデルと役割』(編著・勉誠出版・2016年)／『専門図書館の人的資源管理』(単著・勉誠出版・2012年)ほか



**駒見 和夫**  
KOMAMI Kazuo

博士(歴史学) 教授  
研究分野 **博物館学、歴史考古学**



【最終学歴】東洋大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習/臨床教育学演習IV/博物館学特論 【研究テーマ】生涯学習社会に位置づく博物館の役割と機能の検討 【主な著書・論文】『人文系博物館教育論』(共著・雄山閣・2014)/『博物館教育の原理と活動』(単著・学文社・2014年)/『特別支援教育と博物館—博学連携のアクティブラーニング』(編著・同成社・2016年)/『だれもが学べる博物館へ—公教育の博物館学』(単著・学文社・2008年)/『博物館におけるインクルーシブ教育』(全博協研究紀要20-21・2019年)

**伊藤 貴昭**  
ITO Takaaki


博士(教育学) 教授  
研究分野 **教育心理学**



【最終学歴】慶應義塾大学大学院 【担当授業科目】臨床人間学総合演習、教育学総合演習、教授学習心理学特論 【研究テーマ】認知過程に基づく教授学習研究 【主な著書・論文】『教育心理学』(共著・学文社・2020年)/『学びを創る・学びを支える』(共著・一藝社・2020年)/『教師のための説明実践の心理学』(共著・ナカニシヤ出版・2019年)/『理解確認のための説明が説明者と聞き手の理解および自己評価に及ぼす影響』(単著・『日本教育工学会論文誌』46, 313-324, 2022年)/『説明状況の違いが説明者自身の理解促進効果に与える影響』(共著・『教育心理学研究』67, 132-141, 2019年)ほか

**三浦 太郎**  
MIURA Taro


教授  
研究分野 **図書館情報学**



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】図書館文化特論/図書館情報メディア特論 【研究テーマ】図書館史、特に近代日本の図書館制度に関する考察 【主な著書・論文】『社会的媒体としての図書・図書館』(共著・松籟社・2023年)/『公立図書館の思想・実践・歴史』(共編著・松籟社・2022年)/『図書館の社会的機能と役割』(共著・松籟社・2021年)/『図書・図書館史—図書館発展の来し方から見えてくるもの—』(編著・ミネルヴァ書房・2019年)

**関根 宏朗**  
SEKINE Hiroaki


博士(教育学) 准教授  
研究分野 **教育人間学、教育思想史**



【最終学歴】東京大学大学院教育学研究科博士課程修了 【担当授業科目】臨床人間学総合演習、臨床教育学演習VII、教育人間学 【研究テーマ】政治的主体形成をめぐる理論的・思想史的研究 【主な著書・論文】『教育原理』(共著、ミネルヴァ書房、2018)/『ワークで学ぶ教育課程論』(共著、ナカニシヤ書店、2018)/『教育思想事典[増補改訂版]』(項目執筆、創草書房、2017)/『教員養成を問う—制度・実践・理論』(共編著、東洋館出版社、2016)/『「甘え」と「自律」の教育学:ケア・道徳・関係性』(共著、世織書房、2015)ほか

**山下 達也**  
YAMASHITA Tatsuya


博士(教育学) 教授  
研究分野 **教育史、比較教育学**



【最終学歴】九州大学大学院 【担当授業科目】教育社会史特論、教育学演習VIII 【研究テーマ】日本を含むアジアの学校・教員に関する比較史研究 【主な著書・論文】『教員養成政策の『特別措置』に関する日韓比較研究』(『明治大学教職課程年報』第43号)/『植民地朝鮮の学校教員—初等教員集団と植民地支配—』(単著、九州大学出版会)/『教育の歴史・理念・思想』(分担執筆、協同出版)『植民地朝鮮における「内地人」教員の多様性』(『日本の教育史学』第50集)/『学校教員たちの植民地教育史』(単著、風響社)など

**井上 由佳**  
INOUE Yuka

Ph.D. 准教授  
研究分野 **博物館学、博物館教育学、国際理解教育、博物館の人材育成**



【最終学歴】Institute of Education, University of London (IOE-UCL) 【担当授業科目】臨床人間学総合演習、博物館教育論特論 【研究テーマ】国内外の博物館の社会的・教育的役割、博物館人材育成の国際比較 【主な著書・論文】『ユネスコと博物館』(共著、雄山閣)/『世界と未来への架橋』(共著、創成社)/『人間の発達と博物館学の課題:新時代の博物館経営と教育を考える』(共著、同成社)/『博物館の理論と教育』(共著、朝倉書店)/『博物館学芸員養成教育を担当する教員の現状に関する考察』(共著『國學院大學博物館学紀要42』)

近年の博士学位授与

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(文学)	遠藤周作文学研究—ポストコロニアルズムと移動の観点から	2020年度
博士(文学)	The Reception History of Ferenc Molnár's 'Liliom' in Japan—Translations and theatre adaptations—	2020年度
博士(文学)	野田秀樹作品における「神話」と「虚構」	2020年度
博士(史学)	大正・昭和期における日本陸軍の世論対策—陸軍省新聞班による対国内宣伝からみる陸軍の政治関与—	2020年度
博士(史学)	「満州国軍」に関する研究—日本による支配、利用およびその戦後—	2020年度
博士(史学)	明治維新期の藩政と国家—土佐藩を事例に—	2021年度
博士(史学)	佐々木惣一の憲法思想と国民国家—日本憲法の独自性と立憲主義の普遍性の間—	2021年度
博士(史学)	日独間の航空技術移転と日本航空機産業の自立化(1919~45年)	2021年度
博士(地理学)	ハワイ日本人移民の定着に関する文化地理学的研究—コナ・コーヒー・ベルトを事例に—	2021年度
博士(地理学)	九州におけるカルデラ形成噴火に伴う大規模火砕流堆積物からなる台地の形成過程に関する地形学的研究	2021年度
博士(史学)	明治から昭和戦前期における戸籍名の表記と音声—複名俗と一人一名制のあいだ—	2022年度
博士(史学)	南宋前期茶馬貿易史の研究	2022年度
博士(臨床人間学)	An Environmental Sociological Comparative Study on Analytical Perspectives of Environmental Justice and Recognition	2022年度
博士(文学)	『源氏物語』における仏教受容の研究—聖性の表象と陰影—	2023年度
博士(文学)	福永武彦におけるフィクションの方法—主体性の破壊と再構成の諸相—	2023年度
博士(史学)	戦間期における日本知識人のアメリカ認識—高木八尺と高柳賢三の言説分析からみる特徴と問題点—	2023年度
博士(史学)	13-14世紀モンゴル政権・地域社会と儒教—曲阜地域石刻の分析を通して—	2023年度
博士(史学)	土器の型式学に基づく南関東弥生後期社会の研究	2023年度

論文博士

博士(文学)	大正期の翻訳オペラの研究—浅草オペラの興行、上演、演劇性を中心に—	2020年度
博士(文学)	演劇写真の誕生と展開—東京の役者、写真師、そしてメディア—	2020年度
博士(臨床人間学)	「生産の踏み車」論と「エコロジカル近代化」論の対立と相補性—環境・社会・ガバナンス(ESG)投資をめぐるグローバル環境ガバナンス—	2022年度
博士(史学)	大宰府成立過程の研究	2023年度
博士(地理学)	農山村の新しい内発的発展に関する地理学的研究—農村空間の商品化とcommonsの創造をめぐる—	2023年度